取扱説明書

このたびは、コンタックスN DIGITAL をお買い上げいただきありがとうございます。
このカメラは35mmフルサイズCCDを搭載したフルフレーム一眼レフデジタルカメラです。従来の 35mm フィルム使用カメラと同感覚で作品づくりに専念できます。
『作品を作るカメラ』であるコンタックスの基本思想を継承しながら、オートフォーカス(AF)/マニュアルフォーカス(MF)を被写体に応じて使い分け、作画意図に的確に対応できるカメラです。

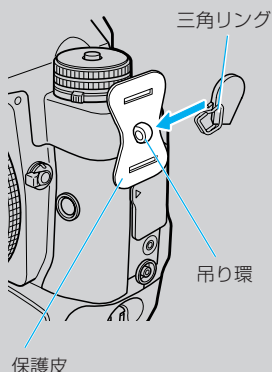
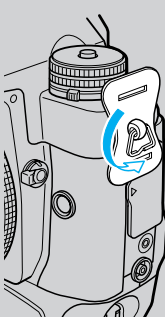
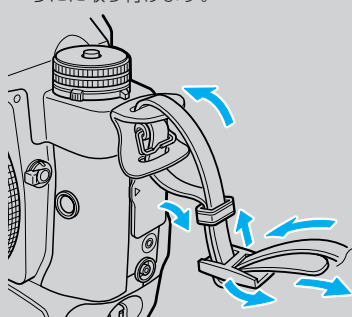
さらに次のような特徴もございますので、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取り扱いで末永くご愛用ください。

1. 記録画素数約 600 万画素 35mm フルサイズ(24mm × 36mm)デジタルカメラ
2. 多彩な画質記録モード搭載
3. 各種ホワイトバランスを搭載
4. 記録媒体はコンパクトフラッシュ Type Ⅰ / Ⅱ、マイクロドライブに対応
5. その他(撮影機能)
   ① 対角 5 点測距によるオート選択モード、マニュアル選択モード搭載
   ② カールツァイス T *レンズ性能をフルに引き出す高速シャッター搭載
   ③ ピントの合う位置を自動的にずらして撮るフォーカス ABC 機能
   ④ 撮影領域を拡げる多彩なアクセサリー群

※ このカメラの取扱い説明は、記録媒体をコンパクトフラッシュで説明していますが、マイクロドライブ使用時も同様の取扱いになります。

本書の作例写真は説明のためのイメージ写真です。

ストラップの取り付けかた

①吊り環に保護皮を取り付けます。

②三角リングを吊り環に取り付けます。

③ストラップを保護皮と三角リングに通して図のようにに取り付けます。

同梱品について

初めてご使用になる前に、次のものが揃っているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買上の販売店にご連絡ください。

① カメラ‥‥‥CONTAX N DIGITAL
② ストラップ
③ AC アダプター（仕向地別電源コード付）
④ 充電器
⑤ 単 3 形蓄電池‥‥‥4 本
⑥ CCD パラメーターディスク‥‥‥本機に搭載する CCD 固有の情報が入っています。

目次

ストロボ撮影

フロントコマンドダイヤルの応用操作

撮影画像の再生と消去

各種設定

セットアップの使いかた

カスタム機能について

PC モードについて

主なアクセサリー

その他

参考資料

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠ 危険	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷をを負う危険性が切迫して想定されることを示します。

⚠ 警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

⚠ 注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

取り扱い上のご注意

〈カメラ使用上のご注意〉

⚠ 警告	● カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。） ● カメラを分解、改造しないでください。高電圧がかかり感電する恐れがあります。 ● ストロボ撮影時、ストロボを人の目（とくに乳幼児）に近づけて撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ● カメラで、太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。

⚠ 注意	● 海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うとレンズやボディ内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してから使用してください。**

- このカメラは防水機構になっていませんので、雨天や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- レンズやファインダー接眼部などにゴミ・ホコリがある場合は、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払い、指紋などがついた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。またミラー面のゴミやホコリは、レンズ刷毛で軽く払う程度にしてください。
- 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので、絶対に使用しないでください。

- 撮影や再生直後など、カードアクセスLEDが点滅しているときは、コンパクトフラッシュやマイクロドライブを取り出さないでください。
- 強力な電磁波を発生させる場所（テレビやスピーカーのすぐ近くなど）では、画像が乱れて記録されたり、再生画像が乱れることがあります。
- 太陽に直接カメラを向けて撮影しないでください。カメラのCCDを損傷します。
- カメラを落下させたときは、外観に異常がなくても、内部が破損していたり、はずれている場合があります。必ず当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- カード着脱部の内部には触れないでください。故障の原因となります。

〈マイクロコンピューターの保護回路について〉
このカメラは外部の強力な静電気に対して、内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合はメインスイッチをOFFにし、一旦電池を取り出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、アクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。市販されている他社製品、あるいは自作の製品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。

著作権について
あなたが、実演や興行・展示物などを撮影したものは、個人で楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行・展示物などのうちには、個人で楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ためし撮りと撮影内容の補償について：
必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一本機や記録媒体（コンパクトフラッシュまたはマイクロドライブ）の不具合により、撮影画像の記録やパソコンへの読み込みが行われなかった場合の記録内容の補償についてはご容赦ください。

電波障害自主規制について：
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 航空機の機内や病院など、使用を禁止された場所ではカメラの電源をOFFにしてください。電子機器などに影響を与え事故の原因となります。

〈カメラの保管について〉

- カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

- 暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間おいておくと、コンパクトフラッシュや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。
- カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

〈表示パネルと液晶モニターについて〉

⚠ 注意	● 液晶モニターの画面を強くこすったり、強く押したりすると故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミなどが付着した場合は、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム皮などで軽く拭き取ってください。 ● 万一液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをする恐れがありますので十分ご注意ください。 ● 液晶モニターの破損により中の液晶が皮膚に付着した場合、すみやかに付着物を拭き取り、水で流し、石鹸でよく洗浄してください。また目に入った場合、きれいな水で最低15分間洗浄した後、速やかに医師の診断を受けてください。

● 液晶モニターの特性上、一部の画素で常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。また記録される画像には何ら影響ありません。
● 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくくなる場合があります。

〈ニッケル水素蓄電池・使用上のご注意〉

⚠ 危険	● 高温になる場所（火のそば、ストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生するような場所での充電・放置はしないでください。発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 電池の（＋）（－）端子を金属物などでショートさせないでください。発熱、発煙、発火の原因になります。 ● カギ、ネックレス、コインなどの金属物と一緒に保管はしないでください。金属片などと端子が接触してショートする恐れがあります。 ● 火の中に投入したり、加熱しないでください。発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 分解や改造はしないでください。発熱、発煙、発火や電池内の液が目に入り失明などの事故の原因になります。万一、電池の液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い流してただちに医師の治療を受けてください。 ● 充電の際は専用の充電器を使用してください。専用の充電器以外で充電すると、発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。

⚠ 警告	● 電子レンジや高圧容器に入れないでください。液漏れ、発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 液漏れした電池を使用しないでください。電池内の液が人体に付着すると傷害を起こす恐れがあります。万一、付着したらすぐにきれいな水で洗い流してください。 ● 破損した電池を使用しないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。

⚠ 注意	● 水、雨水、海水などにつけたり、濡らしたりしないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。 ● 濡れた電池を使用・充電しないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。 ● 幼児の手の届く場所には置かないでください。けがなどの事故の原因になります。 ● 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。液漏れの原因になります。 ● できるだけ、常温（20℃±5℃）でご使用ください。夏期や冬期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では電池の容量が、低下し使用できる時間が短くなります。また、電池の寿命も短くなります。 ● 電池を使用しない場合には、湿気の少ない場所に保管してください。

ニッケル水素蓄電池
使用後はリサイクルへ

〈充電器および AC アダプター・使用上のご注意〉

⚠ 警告

- プラグの抜き差しが不完全な状態で使わないでください。接触不良により発熱し、火災や感電の原因になります。
- コードを加工したり無理な力を加えたりしないでください。コードが傷つき火災や感電の原因になります。芯線が露出するほど痛んだ場合は使用を中止し、ご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。
- カバーをはずしたり、分解、修理、改造しないでください。感電する危険があります。
- プラグにほこりがついた状態で使用したり、金属を近づけたりしないでください。電気が金属を伝わり、火災や感電の原因になります。ほこりがたまったときは、プラグをコンセントから抜き、ほこりを取り除いてください。
- 煙や異臭、異音がでたり、落下、破損したときは使用を中止してください。そのまま使用すると火災の原因になります。そのような場合は、ご購入店か当社サービスステーションにご相談ください。
- 家庭用電源コンセント（AC100V50/60Hz）以外はつながないでください。指定外の電圧や電源で使用すると火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

- 充電器およびACアダプターは必ず専用品をご使用ください。指定外の充電器やACアダプターを使用すると思わぬ事故や火災の原因になることがありますのでご注意ください。
- コードを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、継ぎ足すなどは絶対にしないでください。
- 濡れた手で充電器やACアダプターを抜き差ししないでください。感電する恐れがあります。
- コンセントからの抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを引っ張るとコードが傷ついたり断線したり火災や感電の原因になることがあります。
- 充電器およびACアダプターの傷、断線、プラグの接触不良などにお気づきのときは使用を中止して早めにご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。

- ACアダプターは長時間使用すると若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 長時間使用しないときは安全のため先にカメラ側のプラグをカメラ本体から抜き、その後コンセント側のプラグを抜いてください。
- カメラに電池をセットした状態でACアダプターを使う場合、カメラの電源をOFFにしてACアダプターの抜き差しを行ってください。
- このACアダプターは、本機専用です。火災や感電の危険防止のため、指定されたデジタルカメラ以外には使用しないでください。

＊ CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
＊ Windowsは米国マイクロソフト社の登録商標です。
＊ Micro Driveは米国International Business Machines社の商標です。
＊ 全ての会社名、ブランド名または商品名は、それらの所有者の登録商標または商標です。

各部の名称

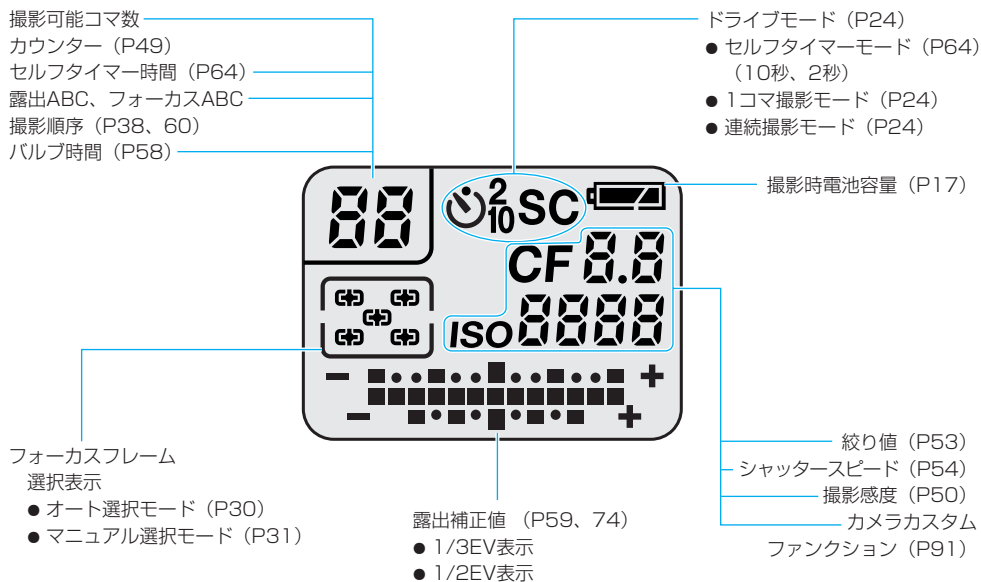
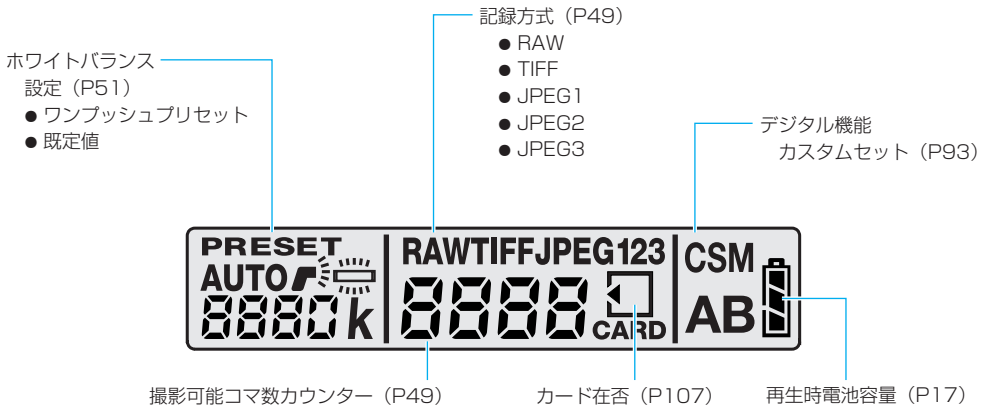
露出補正ダイヤルロック解除ボタン（P59）
露出補正ダイヤル（P59）
露出ABC レバー（P61）
ドライブボタン（P24）
トップ表示パネル（P12）
トップライトボタン（P13）
吊り環（P2）
メインスイッチ（P23）
シャッターボタン（P23）
フロントコマンドダイヤル（P25）
セルフタイマーLED（P64）
露出チェックボタン（P15）
AF補助光（P32）
絞り込みボタン（P65）

アクセサリーシュー（P68）
専用ストロボ接点（P68）
ダイレクトX接点（P72）
シャッターダイヤル（P54）
シャッターダイヤルロック解除ボタン（P74）
露出モードレバー（P50、53、92）
レンズ指標（P18）
測光レバー（P41）
レンズ取り外しボタン（P18）
スクリーン交換つめ（P102）
マウント（P18）

液晶ビューファインダー用接点（P98）
ファインダー接眼部（P14）
アイピースシャッター（P64）
露出モードロック
解除ボタン
（P50、53、92）
DISPLAYボタン
（P26）
（消去)/MENU
ボタン（P27）
液晶モニター
（P20、107）
リア表示パネル（P13）
三脚ねじ穴
接眼リング（P18）
アイカップ F-4（P18）
視度調整ダイヤル（P18）
マニュアル選択レバー（P31）
オート選択レバー（P30）
フォーカスダイヤル（P32）
フォーカスボタン（P37）
W.BAL/ (決定)ボタン
（P26）
/BACKボタン（P26）
縦位置オート選択レバー
（P28）
縦位置マニュアル選択
レバー（P28）
縦位置フォーカスボタン
（P28）
リアライトボタン（P13）
モードダイヤルロック解除ボタン（P25）
モードダイヤル（P25）
リアコマンドダイヤル（P25）
測光レバー（P41）
デジタル端子カバー
（P96）
ケーブルスイッチ
ソケット（P99）
シンクロターミナル
（P72）
電池ホルダー（P17）
電池ホルダー着脱ノブ（P17）
DIGITAL
DC IN5V
デジタル端子（P96）
外部電源ソケット
（P17）

表示パネルおよびファインダー内表示

〈トップ表示パネル〉

（表示内容は次の通りです。この図は説明のために全情報を表示したもので実際の表示とは異なります。）

〈リア表示パネル〉

〈表示パネルの照明〉

表示パネルには照明機能が付いています。“LIGHT” ボタンを押すたびに照明はついたり消えたりします。暗い場所での撮影などで表示パネルが見えにくいときなどにご利用ください。

● 表示パネルが照明されている間に他のダイヤルやボタンを操作すると照明時間は延長されます。撮影開始と同時に表示パネルの照明は消えます。

（表示内容は次の通りです。この図は説明のために全情報を表示したもので実際の表示とは異なります。）

〈ファインダー内表示〉

撮影可能コマ数
カウンター（P49）
セルフタイマー時間（P64）
露出ABC、フォーカスABC
撮影順序（P38、60）

フォーカス表示（P32、36）
“●” 点灯：合焦
“►” 点灯：後ピン
“◄” 点灯：前ピン
“► ◄” 点滅：合焦不能

露出メーター（P15、57）
露出補正値（P59）
● 1/3EV表示
● 1/2EV表示
測光差（P15、91）

露出ABCモード
(P60)

フォーカスABCモード
（P38）

測光モード（P41）
● 評価測光
● 中央重点平均測光
● スポット測光

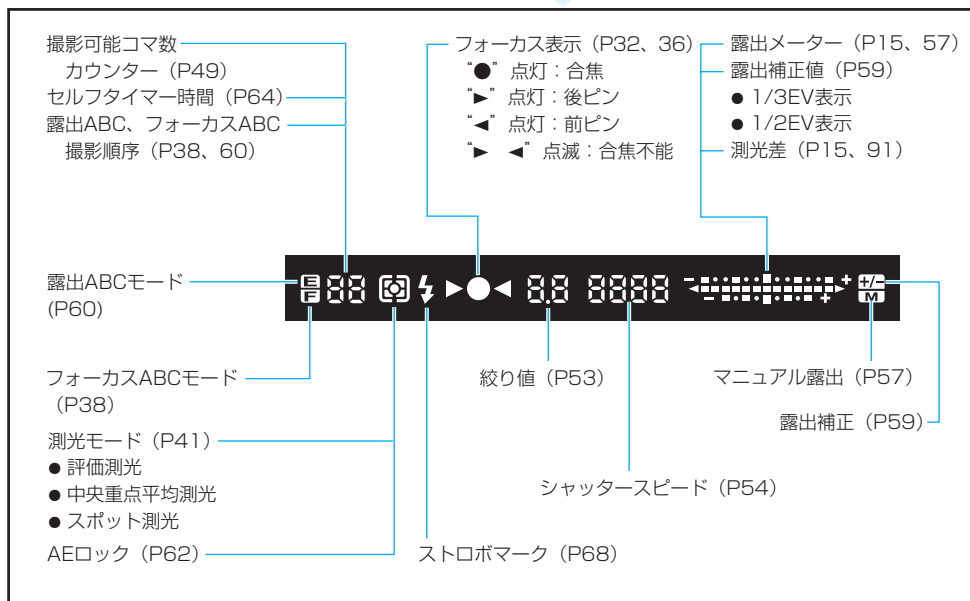
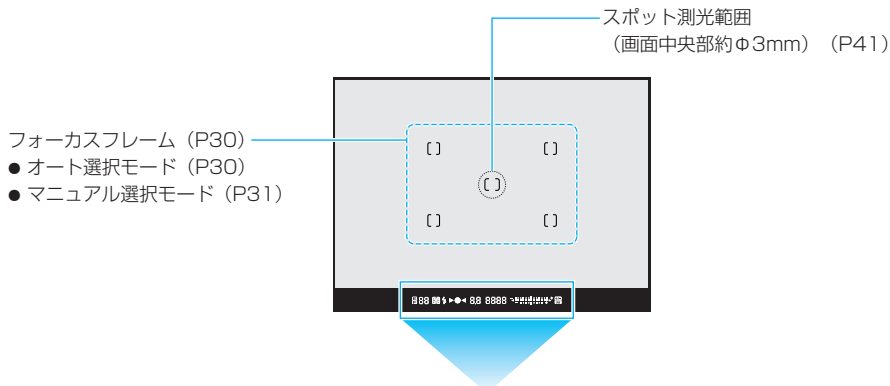
AEロック（P62）

ストロボマーク（P68）

絞り値（P53）

シャッタースピード（P54）

マニュアル露出（P57）

露出補正（P59）

ファインダー内表示は、ピント合わせ状況、絞り、シャッタースピード、などの表示の他に、露出メーターや撮影可能コマ数カウンターなどが表示される、情報集中ファインダーです。
ファインダー内表示は、次の操作をしたときに表示され、16秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。

① メインスイッチをONしたとき。
② メインスイッチONの状態で、露出チェックボタンを押したときおよび、シャッターボタン半押しで表示されます。
また表示中にダイヤル等を切り替えたときは、表示はさらに16秒間延長されます。

● 表示時間（パワーホールド時間）を変更することができます。（P91）
● 次の場合はファインダー内表示が消灯します。
"撮影中"、"電池容量無し"、"露出モードレバーをISOまたはCFに設定しているとき"、モードダイヤル"▶"、"CSM"、"SETUP"設定時。

露出メーターについて

ファインダー内露出メーターは、露出モードにより次の表示をします。

① **オート露出撮影（Tv、Av、Pモード）：**露出補正値を表示します。
CF お買い上げ時には"評価測光"時の露出メーター表示も「露出補正値」表示になっていますが、ファインダー内露出メーターを評価測光と中央重点平均測光との差、あるいはスポット測光との差の表示に変更することができます。（P91）
② **マニュアル露出撮影"M"及びストロボ撮影"X"：**露出設定値と設定した測光モードでの適正露出との差を表示します。
③ **バルブ撮影：**表示されません。

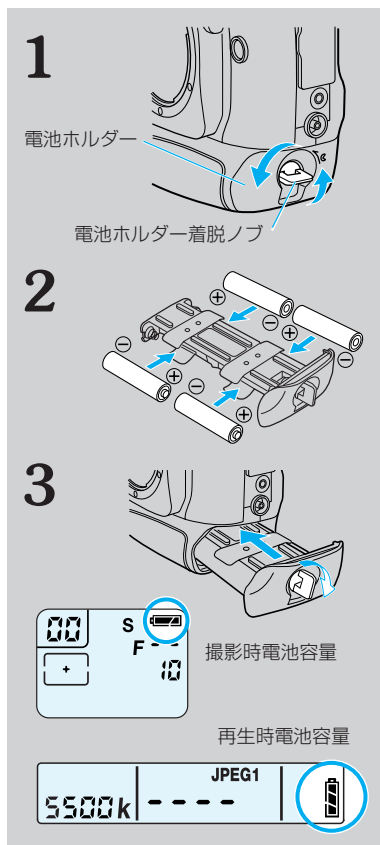
撮影前の準備と操作確認

撮影前の準備

1. 充電のしかた

充電方法は同梱充電器の取扱説明書をご覧ください。

- ニッケル水素蓄電池は出荷前には充電されていません。カメラに装填する前に必ず充電して下さい。

2. 電池の入れかたと容量確認

1 **電池ホルダー着脱ノブを起こし、矢印方向に回して電池ホルダーを取りはずします。**

2 **電池ホルダーに、充電済みのニッケル水素蓄電池を取り付けます。**

電池ホルダーの表示に従って、電池の＋－を正しく取り付けします。

- 充電方法は付属の充電器の取扱説明書をご覧ください。
- 単3形アルカリ乾電池は電池容量が少ないので使用できません。

3 **電池ホルダーをカメラに装填し、着脱ノブを時計回りに回して固定します。**

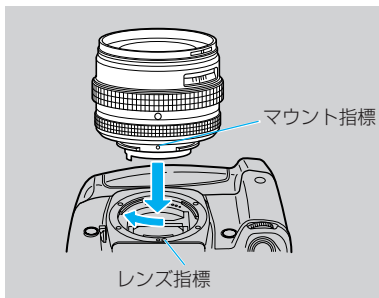
- 着脱ノブは倒して元の位置に収納してください。
- フル充電した蓄電池でも、連続撮影中および低温の撮影において一時的に電圧が低下し“ ”や“ ”が点灯することがあります。このようなときには、メインスイッチのOFF⇔ONを2～3回くり返してください。この操作で“ ”や“ ”が点灯すれば電池容量は十分あります。

屋内での長時間撮影では付属のACアダプターのご使用をおすすめします。外部電源ソケットに接続してください。

〈電池の容量確認〉

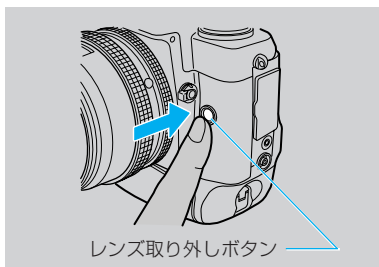
“ ”電池マークの意味は次の通りです。

電池容量表示		表示の意味
撮影時	再生時	
		電池の容量は十分です。
		電池の容量が少なくなっています。
（点滅）		蓄電池を充電してください。
（点滅）		カメラは作動しません。

3. レンズの取り付けかたと取り外しかた

〈取り付けかた〉

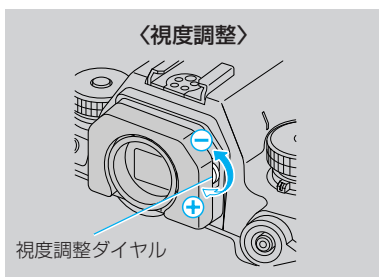
1 カメラのボディキャップとレンズの後キャップを外します。

2 レンズのマウント指標をカメラのレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向に“カチッ”と音がして止まるまで回して取り付けます。

- レンズはコンタックスNマウントレンズをご使用ください。
- マウントアダプターNAM-1を併用すると、コンタックス645システムのレンズが使用できます。（P100）

〈取り外しかた〉

レンズ取り外しボタンを押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引き出して外します。

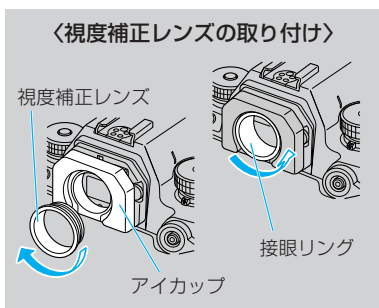
- レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部に触れないでください。またホコリなどの多い場所での着脱は避けてください。接触不良による誤作動の原因になります。

4. 視度調整のしかた

このカメラには視度調整機構が内蔵されています。視度調整ダイヤルを回して、ファインダー内フォーカスフレームがはっきり見えるように調整してください。

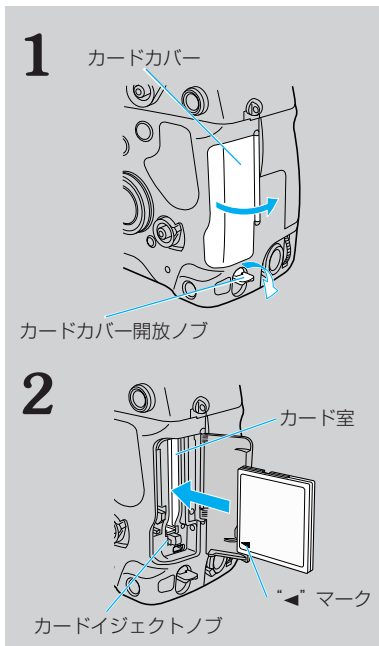
調整範囲は－3.0D～＋1.0D（ディオプター）です。

- カメラの視度調整機構の範囲内で視度調整ができない場合は、別売りの視度補正レンズFMタイプをご利用ください。

視度調整範囲は次のようになります。

視度補正レンズ	調整範囲
なし	－3.0 D～＋1.0 D
FM－3	－6.0 D～－2.0 D
FM＋2	－1.0 D～＋3.0 D

〈視度補正レンズの取り付けかた〉

カメラの接眼リングを外して視度補正レンズをねじ込みます。

5. コンパクトフラッシュの入れかたと取り出しかた

〈入れかた〉

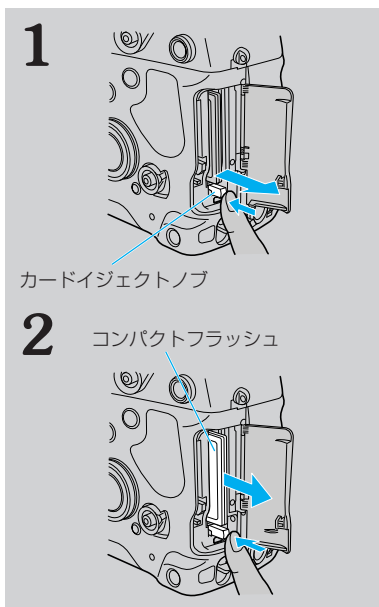
1 **カードカバー開放ノブを起こして矢印方向へ回し、カードカバーを開けます。**

2 **カードイジェクトノブが押し込まれていることを確認して、コンパクトフラッシュをカード室に差し込みます。**

コンパクトフラッシュの"◀"マーク面を液晶モニター側にして、まっすぐに止まるところまで差し込んでください。

- カードイジェクトノブがせり上がっているときは、ノブを押し込んでからコンパクトフラッシュを差し込んでください。
- コンパクトフラッシュが途中までしか差し込めないときは無理に押し込まないでください。カメラ本体破損の原因になります。

3 **カードカバーを閉めます。**

カードカバー開放ノブは、倒して元の位置に収納してください。

〈取り出しかた〉

カードアクセスLED点滅中は、絶対にコンパクトフラッシュを取り出さないでください。記録できなかったり、記録データやカメラ本体を破損する原因になります。

1 **カードカバーを開け、カードイジェクトノブを押すとカードイジェクトノブがせり上がります。**

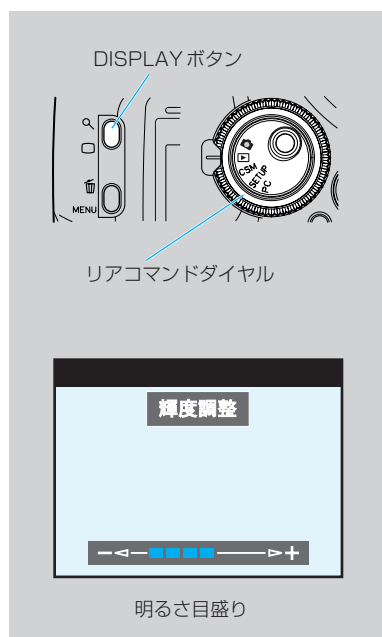
2 **再度カードイジェクトノブを押してコンパクトフラッシュを取り出します。**

- カードイジェクトノブを押すとコンパクトフラッシュが少し出てきますので、指でつまんで引き出してください。

コンパクトフラッシュのフォーマットはP83をご覧ください。

〈コンパクトフラッシュおよびマイクロドライブ使用上のご注意〉

- コンパクトフラッシュおよびマイクロドライブは非常に精密にできています。落としたり曲げたり、強い衝撃や振動を与えないでください。記録されている画像が壊れる原因になります。
- テレビやスピーカーなど磁気を帯びたものや静電気を発生しやすい場所で、使用・保管はしないでください。記録されている画像が壊れる原因になります。
- コンパクトフラッシュやマイクロドライブに液体をこぼさないでください。使用不能になる原因になります。
- 大切なデータを守るためにケースなどに入れて保管してください。

6. 液晶モニターの明るさ調節

撮影後のRECレビュー時や再生時の撮影画像確認中など、液晶モニターに撮影画像が表示されているときに明るさの調整ができます。

1 **DISPLAYボタンを押しながらリアコマンドダイヤルを回すと、“輝度調整”モードになります。画像を見ながら明るさを調節します。**

モニター内には明るさの目盛りが表示されます。

2 **DISPLAYボタンから指を離すと調節した明るさで固定します。**

7. 日付・時刻の設定

1

2

SET—UP

CFフォーマット
連番リセット
日付設定
言語LANGAGE　日本語
クリーニング

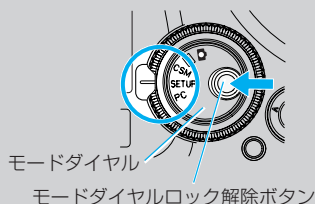
3

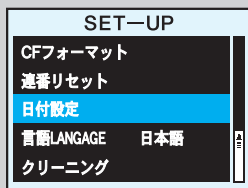
"年"

日付設定

2002.　04.　01
00　:　10
年月日　月日年　日月年

4

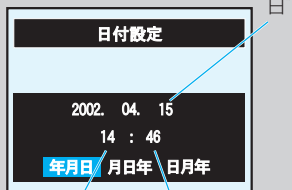
6

1 メインスイッチを ON にし、モードダイヤルロック解除ボタンを押しながらモードダイヤルを "SETUP" にします。

液晶モニターに "SET-UP" 項目が表示されます。

2 リアコマンドダイヤルを回して青窓を動かし、13 項目の "日付設定" を選択して "↵" ボタンを押します。

液晶モニターが日付設定表示になり、年表示が青窓表示になります。

3 リアコマンドダイヤルを回して "年" を合わせ、"↵" ボタンを押します。

4 青窓表示が "月" 表示に移動しますので、リアコマンドダイヤルを回して "月" を合わせ "↵" ボタンを押します。

- "BACK" ボタンを押すと "年" 表示に戻ることができます。

5 同様にして "日" "時" "分" を合わせて決定します。

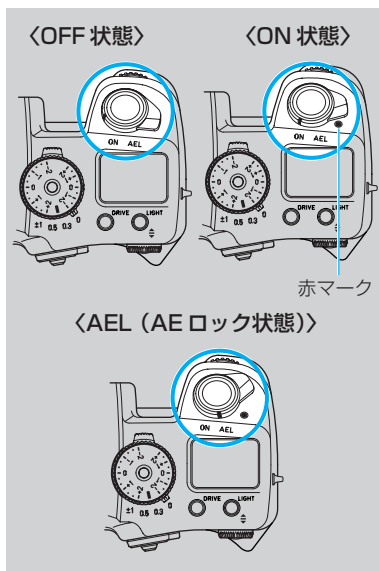
6 青窓表示が "年月日" 表示に移動しますのでリアコマンドダイヤルで "年月日" "月日年" "日月年" のいずれかを選んで "↵" ボタンを押します。

モニター表示が元の "日付設定" 表示に戻ります。これで日付設定が完了です。

- 設定途中で "MENU" ボタンを押すと、変更前の設定に戻ります。
- "BACK" ボタンを押して "SET-UP" メニュー表示に戻したときも変更前の設定に戻ります。

撮影前の準備と操作確認

基本的な操作

1. メインスイッチについて

メインスイッチは電源のOFF、ONおよびAEL（AEロック）の切り換えを行います。

● 誤作動を防ぐため、メインスイッチはクリックの位置に止めてご使用ください。

OFF：赤マークが見えないとき

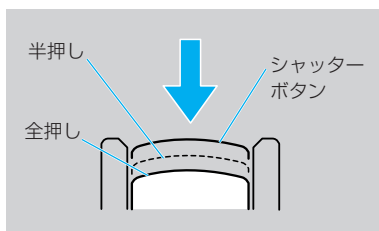
カメラの電源が切れ、OFF の状態になっています。

ON：

カメラの電源が入ります。

AEL：

逆光での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するなど、露出を固定（AEロック）したいときに使います。（詳しくは P62 参照）

2. シャッターボタンについて

シャッターボタンの操作は 2 段階になっています。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内表示が点灯し、オートフォーカスや測光機能が作動します。さらにシャッターボタンを押し込む（全押し）とシャッターが切れ撮影が行われます。

● コンパクトフラッシュを入れる前に、実際にシャッターボタンを押して、半押しの感覚をつかんでください。
● シャッターボタンはカメラぶれ防止のためにも、指の腹で静かに押してください。

3. ドライブモードの切り替えかた

撮影目的に応じて、次のドライブモードを選ぶことができます。

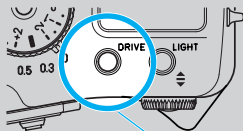
“S”……1 コマ撮影

シャッターボタンを押すごとに 1 コマ分撮影されます。

“C”……連続撮影

シャッターボタンを押している間、最高約3コマ／秒の連続撮影ができます。（撮影コマ速度は、シャッタースピードや撮影感度、記録方式、使用する電池の状態などにより変化します。）

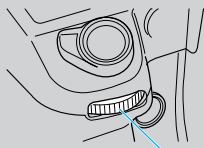
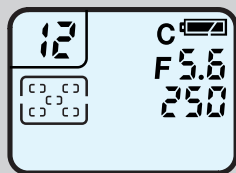
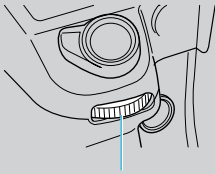
“ⓢ2” “ⓢ10” ……セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影になります。詳しくは P64 をご覧ください

1 **ドライブボタンを押すとドライブ設定モードになります。**

トップ表示パネルに全ドライブモードが表示され現在選択されているドライブモードが点滅します。

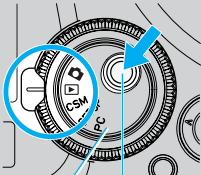
2 **フロントコマンドダイヤルを動かして希望のドライブモードを点滅させます。**

コマンドダイヤルを動かすとドライブモードが次のように切り替わります。

“S” ⟷ “C” ⟷ “ⓢ2” ⟷ “ⓢ10”

3 **ドライブボタンを押すとドライブモードが確定し、表示パネルは通常の表示に戻ります。**

4. フロントコマンドダイヤルについて

フロントコマンドダイヤル

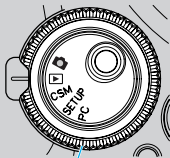
フロントコマンドダイヤルは“撮影”モードにおいて次の機能選択に使用します。

① ドライブモードの選択（P24）
② 撮影感度選択（P50）
③ 撮影操作時の CF（カスタムファンクション）機能選択（P92）
④ シャッタースピードの選択（P74）
⑤ 露出補正量の選択（P74）

5. モードダイヤルについて

モードダイヤル　モードダイヤルロック解除ボタン

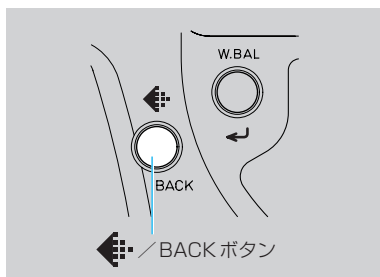
モードダイヤルは次のモード切り替えに使用します。モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、モードダイヤルを回して切り替えます。

① “📷”（撮影）モード（P43）
② “▶”（再生）モード（P76）
③ デジタル機能の“CSM”（カスタム）モード（P93）
④ “SETUP”（セットアップ）モード（P86）
⑤ “PC”（パソコン）モード（P96）

6. リアコマンドダイヤルについて

リアコマンドダイヤル

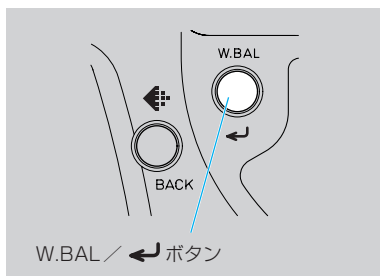
リアコマンドダイヤルは次の切り替えに使用します。

① “📷”モード時：W.BAL 設定値（P51）／記録方式（P49）／画像消去(P47、79)／ズーム表示位置の選択
② “▶”モード時：コマ送り（戻し）（P76）／消去画像選択、マルチ表示時再生画像選択、ズーム表示位置選択
③ “CSM”、“SETUP”モード時：各機能や内容の選択（P86、93）
④ 液晶モニターの明るさ調節（P20）

7. （記録方式）／BACKボタンについて

“／BACK”ボタンは次のときに使用します。

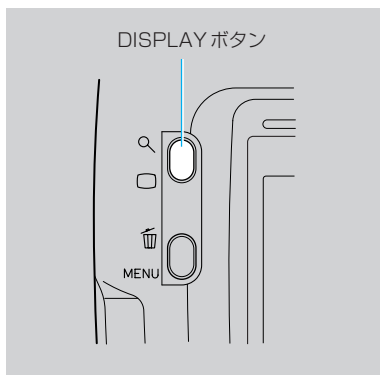
① “ ”モード時：記録方式の選択(P49)、カスタム“A”選択（DISPLAYボタン併用）

② その他のモード時：前の階層または内容に戻す時

8. W.BAL／（決定）ボタンについて

“W.BAL（ホワイトバランス）／（決定）”ボタンは次のときに使用します。

① “ ”及び“PC”モード時：
ホワイトバランス既定値の変更設定と選択後の確定、カスタム“B”選択（DISPLAYボタン併用）

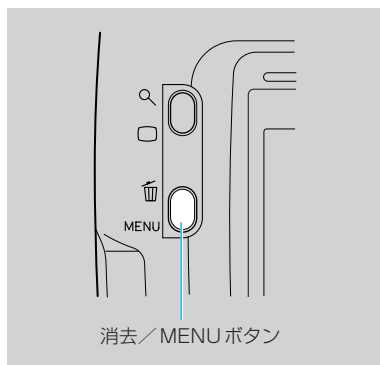
② その他のモード時：機能・内容の“決定”

9. DISPLAYボタンについて

DISPLAYボタンは次のときに使用します。

① “ ”モード時：RECレビュー表示時のズーム表示／ヒストグラム表示／標準画像表示の切り替え、非表示設定時のRECレビュー表示、カスタム“A”／“B”の切り替え（他のボタン併用）

② “ ”モード時：撮影情報表示／ズーム表示／ヒストグラム表示／標準画像表示の切り替え

③ 液晶モニターの明るさ調節（リアコマンドダイヤル併用P20）

10. 🗑（消去）／MENUボタンについて

消去／MENUボタン

🗑（消去）／MENUボタンは次の用途に使用します。

① レックレビュー表示時：撮影画像の消去
② 再生時：1コマ消去／全コマ消去／プロテクト／マルチ表示（9画面表示）の切り替え

11. カメラの構えかた

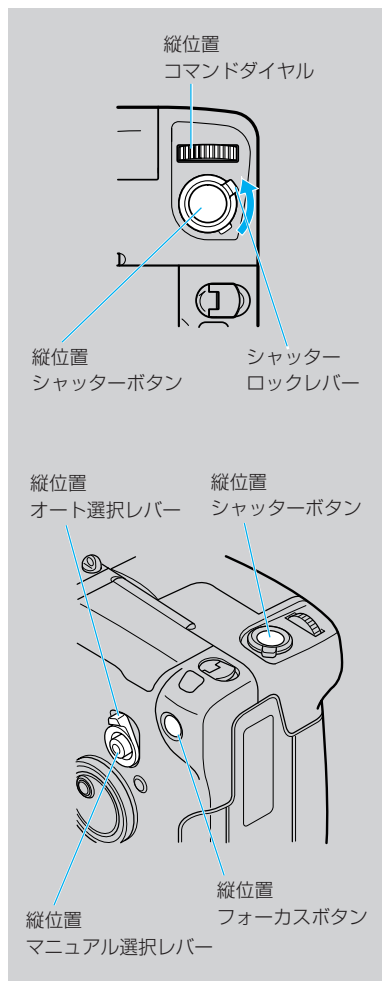
① 脇をしめてカメラを安定させる。
② 写す瞬間、呼吸を止める。
③ 手にあまり力を入れず、静かにシャッターボタンを押す。

ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントが悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。
カメラは横位置の他、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。建物や木立などを利用して身体やカメラを支えることも効果的な方法です。

このカメラは、縦位置専用のシャッターボタン／コマンドダイヤル／オート選択レバー／マニュアル選択レバー／フォーカスボタンを装備しています。縦位置撮影時にカメラをしっかりホールドしながら撮影することができます。

● 暗いところの撮影などでシャッタースピードが遅くなるときは、カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

12. 縦位置撮影について

このカメラは、縦位置撮影に便利な、専用のシャッターボタン／コマンドダイヤル／オート選択レバー／マニュアル選択レバー／フォーカスボタンを装備しています。縦位置撮影時にカメラをしっかりホールドしながら撮影することができます。

〈縦位置撮影のしかた〉

メインスイッチを "ON" にし、シャッターロックレバーを矢印方向に止まるまで回します。
これで、次に説明する縦位置専用のダイヤルやボタン類が使用できるようになります。

- シャッターロックレバーのON/OFFにかかわらず、下表のように各ボタン・ダイヤル・レバーは操作できます。チャンスに応じて縦位置、横位置をご使用ください。

シャッターロックレバー ON/OFF 時の操作表

	シャッターロックレバー	
	ON	OFF
縦位置シャッターボタン	○	×
シャッターボタン	○	○
縦位置コマンドダイヤル	○	×
フロントコマンドダイヤル	○	○
縦位置フォーカスボタン	○	×
フォーカスボタン	○	○
縦位置オート選択レバー	○	×
オート選択レバー	○	○
縦位置マニュアル選択レバー	○	×
マニュアル選択レバー	○	○

○：操作できます。
×：操作できません。

撮影前の準備と操作確認

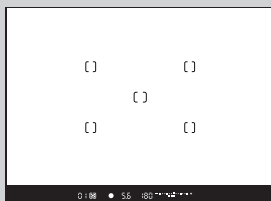
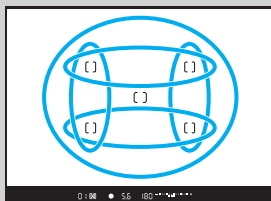
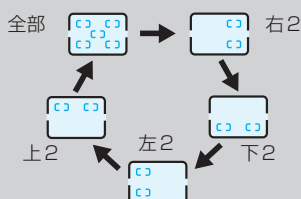
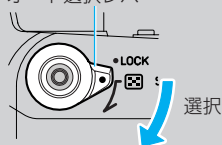
ピント合わせ

このカメラのピント合わせは、カメラが自動的に行うオートフォーカス（AF）と手動で行うマニュアルフォーカス（MF）があります。
AFには、静止している被写体の撮影など一般的な撮影に便利な“SAF”（シングルAF）と、動きのある被写体を連続的に追う場合に便利な“CAF”（コンティニュアスAF）があります。
またAF時のピント合わせ範囲（フォーカス範囲）は、一般的な撮影に便利な、ある範囲の中でピント合わせを行う“オート選択モード”と、選択されたポイントで的確にピントを合わせる“マニュアル選択モード”があります。

さらに、次のような機能も搭載していますので、撮影意図に合わせてご活用ください。

① “SAF”時のフォーカスロック状態からレンズの距離リングを手で回すと、自動的にマニュアルフォーカスに切り替わる『デュアルフォーカスメカニズム』（P33）
② “MF”時にフォーカスボタンを押すと、押している間オートフォーカスによるピント合わせを行う『ワンショット・オートフォーカス』機能。（P37）

1. フォーカスフレームの選択

フォーカスフレーム

〈オート選択モード〉

このカメラは画面中央のフォーカスフレームと、対角線上に配置された４つのフォーカスフレームを持っています。フォーカスフレームの選び方は、被写体の位置に応じて複数のフォーカスフレームの内、カメラが適切なフォーカスフレームを自動選択する**“オート選択モード”**と任意の１カ所を選択する**“マニュアル選択モード”**があります。
オート選択モードには、５つのフォーカスフレームから適切な１カ所を選ぶ方法と、上下･左右の隣り合う２カ所のフォーカスフレームから適切な1カ所を選ぶ方法があります。またオート選択モードを切り替える操作をしたとき選択したフォーカスフレームが一瞬赤く照明されます。

- フォーカスフレーム選択後は必ずロックしてください。不用意に触れてフォーカス位置が変わるのを防ぎます。

〈オート選択モード〉

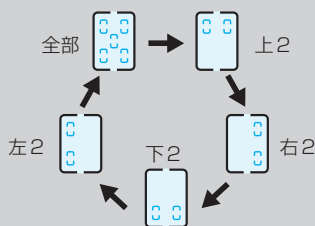
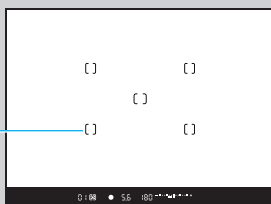
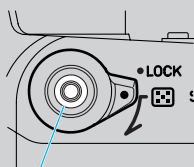
オート選択レバーを矢印方向に動かす毎に、自動選択するフォーカスフレームが図のように切り替わります。

- マニュアルフォーカス時は設定できません。

“ ”：スナップ撮影や旅行のときなどの一般的な撮影に適しています。５つのフォーカスフレームの中からカメラが自動的に適切なフォーカスフレームを選びます。

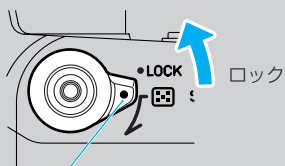
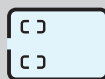
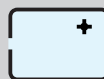
“ ”：画面の端を等距離の被写体が占めている構図に適しています。選択した２つのフォーカスフレームの内、撮影距離の近い方を選択してピント合わせをします。

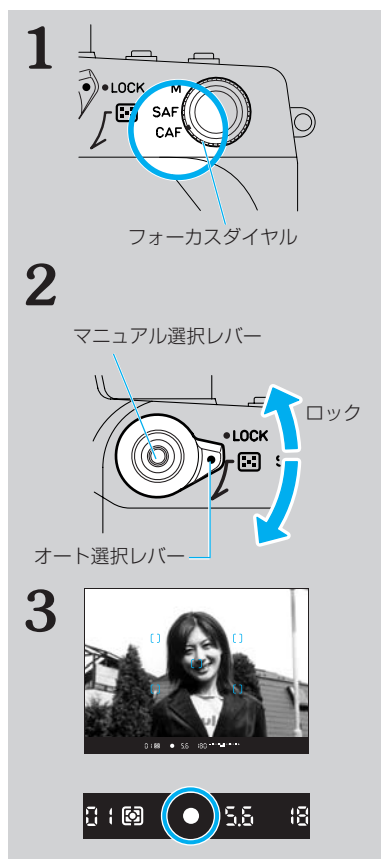
〈縦位置オート選択レバーによる切り替え〉

縦位置オート選択レバーを使用したときは自動選択するフォーカスフレームが図のように切り替わります。

〈マニュアル選択モード〉

マニュアル選択レバーで任意のフォーカスフレームを選択します。対角線上のフォーカスフレームへは、その方向へレバーを倒します。中央のフォーカスフレームを選ぶときは、レバーをプッシュします。選択したポイントで的確にピント合わせを行いたいときに適します。

〈選択したフレームのロック〉

選択したフレームが不用意に動かないようにロックすることができます。
オート選択レバーを“LOCK”の位置に合わせてください。

2. オートフォーカスによるピント合わせ

フォーカスダイヤルが“SAF”、“CAF”のときシャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動します。シャッターボタンの半押し時に選択されているフォーカスフレームが一瞬赤く照明されます。また測距の後、ピントを合わせたフレームが一瞬赤く照明されます。

1 **フォーカスダイヤルを、“SAF” シングルオートフォーカス）または“CAF”（コンティニュアス・オートフォーカス）にセットします。**

2 **フォーカスフレームを選びます。**

オート選択レバーまたはマニュアル選択レバーでフォーカスフレームを選びロック（固定）します。

3 **ピントを合わせたい被写体に、選んだフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。**

自動的にピント合わせが行われ、ピントが合うとファインダー内の合焦マーク“●”が点灯します。

4 **そのままシャッターボタンを押し込んで撮影してください。**

> **AF補助光について：**被写体が暗いときやコントラストが低くピントが合わせにくい場合は、自動的にAF補助光を被写体に照射してAFの精度を高める機構になっています。このときの照射部は画面の中央になります。
> AF補助光の有効距離は約5mです。

〈“SAF” シングルオートフォーカス〉

静止している被写体の撮影など一般的な撮影の場合におすすめします。

シャッターボタン半押しでピント合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントを固定（フォーカスロック）します。

- ピントが合うとシャッターが切れ、ピントが合わないとシャッターが切れません。
- ピント合わせができないとき（“►　◄” 点滅）は、等距離にある別の被写体でフォーカスロックして撮影してください。（P34）
- “►　◄” 点滅中でも、シャッターチャンス優先で撮影したいときは、フォーカスボタンを押しながらシャッターボタンを押してください。シャッターを切ることができます。
- ドライブモードが“C”（連続撮影）の時は、最初の写真でピントが固定し、そのピント位置での連続撮影になります。

〈デュアルフォーカスメカニズム〉
フォーカスモードが“SAF”のとき、合焦マーク“●”が点灯中に手でレンズの距離リングを回すと、自動的にマニュアルフォーカスに切り替わり、ピントの微調整をすることができます。

〈“CAF”コンティニュアス・オートフォーカス〉

動きのある被写体を連続的に追う場合におすすめします。

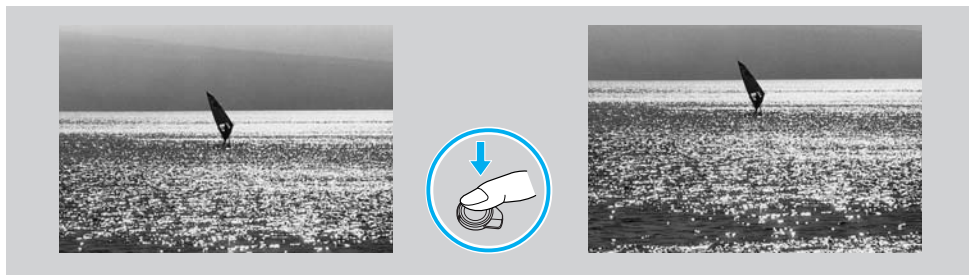
シャッターボタンを半押ししている間､連続してピントを合わせ続けます｡ピントが合っていることを確認して撮影してください。

- 連続撮影“C”では１コマごとにピントを合わせ続けながらの連続撮影になります。
- “►　◄”が点滅し、ピント合わせができないときでもシャッターボタンを押すとシャッターが切れます。
- 被写体の動きや変化により、ピント合わせが連続撮影に追従できない場合があります。

〈フォーカスモードとドライブモードの関係〉

フォーカスモード／ドライブモード	“SAF”（シングル・オートフォーカス）	“CAF”（コンティニュアス・オートフォーカス）	“M”（マニュアルフォーカス）
“S” １コマ撮影	シャッターボタン半押しでピント合わせを行い､一度ピントが合うとその位置でピントを固定（フォーカスロック）します。 ● ピントが合わないと、シャッターが切れません。	シャッターボタンを半押ししている間､連続してピントを合わせ続けます。 ● ピントが合わせができなくてもシャッターを切ることができます。	手でレンズの距離リングを回してピント合わせを行います。
“C” 連続撮影	ピント合わせは１コマ撮影と同じ。 連続撮影時は最初のコマ（写真）でピントを固定しての撮影になります。	ピント合わせは１コマ撮影と同じ。 連続撮影時は、1コマごとにピントを合わせ直します。	ピント合わせは１コマ撮影と同じ。

〈フォーカスロック〉

オートフォーカスのとき、構図によってピントを合わせたい被写体がフォーカスフレームからはずれる場合には、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影します。

■ “SAF” シングルオートフォーカスのとき

1 **ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向けシャッターボタンを半押しします。**

ピント合わせが行われ、ピントが合うとファインダー内合焦マーク “●” が点灯し、その位置でフォーカスロックされます。

2 **シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。**

- シャッターボタンを半押ししている間はピントはロックされていますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
- フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

■ “CAF” コンティニュアス・オートフォーカスのとき

1 **ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。**

シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。

2 **ファインダー内合焦マークが点灯していることを確認して、フォーカスボタンを押してください。**

フォーカスボタンを押したところでフォーカスロックします。

3 **フォーカスボタンを押したまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。**

- フォーカスボタンを押している間、ピントはロックされています。

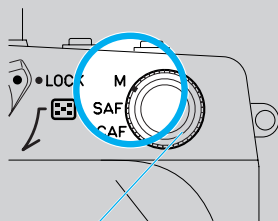
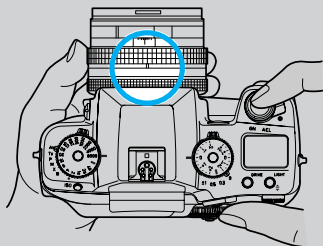
〈オートフォーカスの苦手な被写体〉

オートフォーカス機能を使っても、次のような被写体はピント合わせが難しいので、“►　◄”合焦不能マークが点滅することがあります。このようなときは、フォーカスロックを利用して、等距離にある別の被写体に一度ピントを合わせてから撮影を行うか、マニュアルフォーカスでピント合わせを行ってください。

① 非常に明るいか非常に暗い被写体。
② 被写体のコントラストが極度に低いとき。
③ フォーカスフレーム部やその周辺に太陽光などの強い光源があるとき。
④ フォーカスフレーム内に極度に距離の違う 2 つ以上の被写体が共存するとき。
⑤ 繰り返しパターンが続く被写体。
⑥ ND フィルターや偏光フィルターなどにより、被写体からの光量が極端に少なくなった場合。

3. マニュアルフォーカスによるピント合わせ

ピントが合っている。

ピントが合っていない。

フォーカスダイヤル

〈ピントの合わせ方〉

フォーカスダイヤルを“M”にセットします。
ピント合わせは、手動でレンズの距離リングを回して行います。

このカメラはフォーカシングスクリーン FX-2（全面マット）が標準装備されています。
ピントが合っているときは、マット面の像がはっきりと見え、ピントが合っていないとボケます。

● マニュアルフォーカスモードにすると、フォーカスフレームの選択は“マニュアル選択モード”になります。

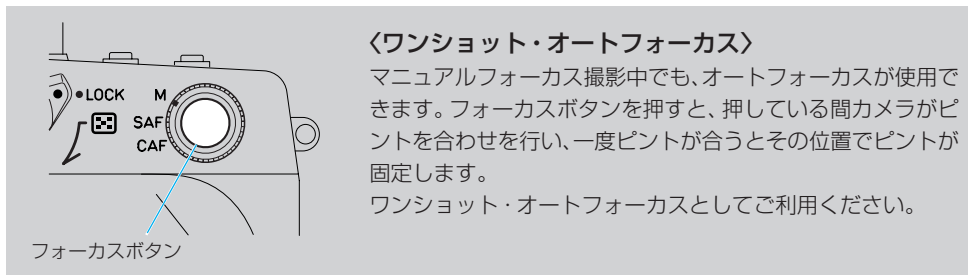
マニュアルフォーカス時、ファインダー内にはフォーカス表示が、選択されているフォーカスフレームに対する測距結果を表示します。

“►”点滅　：被写体よりも遠方にピントが合っている（後ピン）
“●”点灯　：被写体にピントが合っている
“◄”点滅　：被写体よりも手前にピントが合っている（前ピン）

● 選択されているフォーカスフレームにピントが合った時、フレームが赤く照明されます。
● フォーカシングスクリーンは撮影目的や用途に応じて交換することができます。詳しくはP101をご覧ください。

フォーカスボタン

〈ワンショット・オートフォーカス〉

マニュアルフォーカス撮影中でも、オートフォーカスが使用できます。フォーカスボタンを押すと、押している間カメラがピントを合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントが固定します。
ワンショット・オートフォーカスとしてご利用ください。

〈AF/MF切り替えスイッチ付きレンズ使用上のご注意〉

CONTAX N DIGITAL にAF/MF切り替えスイッチ付きレンズを取り付けてMFを使用する場合、レンズ側とカメラ側の両方をMFに設定する必要はありません。カメラ側AF（SAFまたはCAF）設定時、レンズ側の切り替えスイッチだけで素早くAF/MF切り替えができます。またカメラ側MF設定時、レンズ側のスイッチをAFに設定するとワンショットAFが使用できます。
各々の組み合わせでの動作は下表のようになります。撮影意図に合わせて使い分けてください。

		カメラ側のフォーカスモードの設定		
		SAF	CAF	MF
レンズ側の設定	AF	**SAFで動作します。フォーカスボタンを押している間、フォーカスロックします。**	**CAFで動作します。フォーカスボタンを押している間、フォーカスロックします。**	**シャッターボタンでのAF作動は行いません。フォーカスボタンによるワンショットAFが使用できます。** ● AF作動後の距離リングによる微調整はできません。
	MF	**距離リングによるMFになります。** ● AFによるピント合わせの後、MFでピントの微調整を行う時はレンズ側をMFにしてから行って下さい。フォーカスボタンによるワンショットAFは使用できません。		**距離リングによるMFになります。** ● フォーカスボタンによるワンショットAFは使用できません。

4. ピントの位置を自動的にずらして撮る（フォーカスABC撮影）

このモードを使用すると、1コマ目のピント位置に対して、わずかに前ピン、後ピンの写真を続けて撮影することができます。非常に微妙なピントを狙うときにこのモードを使用してください。

1コマ目のピント位置はマニュアルフォーカスで合わせます。1コマ目のピント位置を基準に、2コマ目（前ピン）、3コマ目（後ピン）へのピント移動はカメラが行います。フォーカスABC撮影を行う毎に必ず1コマ目のピント合わせを行ってください。

＊ ABC : Automatic Bracketing Control

〈ピント位置のずらし量について〉

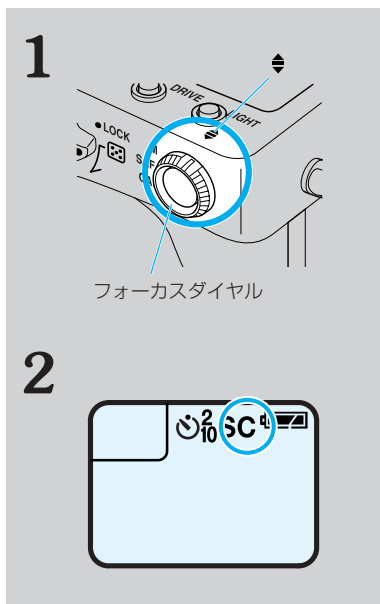
① ピント位置のずらし量は非常にわずかの量ですので、通常の撮影で必ずこのモードで効果が現れるというわけではありません。

② ピント位置のずらし量は、取り付けているレンズの開放F値での被写界深度分です。

③ ピントをずらしたことによる画面効果は使用しているレンズや撮影距離、使用絞りで異なります。一般的に

- 撮影距離が遠いほど、撮影画面に現れる効果は少なくなります。
- 絞りを絞るほど撮影画面に現れる効果は少なくなります。
- ピントを合わせたい部分が画面の中で占める割合が大きいと撮影画面上の効果は少なくなります。
- ピントを合わせたい部分とそれ以外（背景、前景）との距離が近いと撮影画面上の効果は少なくなります。
- 撮影画面を大きく引き伸ばすと、ピント位置をずらした効果が分かり易くなります。

“CF”カスタム機能の変更（P91）で次のことができます。

- ピントをずらす量を2倍にすることができます。
- 1コマ目のピント合わせを“SAF”にすることができます。
- 3コマ目を無し（後ピン無し）にすることができます。2コマ撮影し終わると止まります。

フォーカスダイヤル

1 フォーカスダイヤルを“◆”にセットすると、フォーカスABCモードに切り替わります。このときピント合わせはマニュアルフォーカスにセットされます。

2 ドライブモードを“C”（連続撮影）にセットします。

- ドライブモードのセット方法はP24をご覧ください。

3 マニュアルフォーカスで被写体にピントを合わせ、1 コマ目のピント位置（基準位置）を決めます。

4 シャッターボタンを押し続けます。

自動的に基準位置、前ピン、後ピンの順で撮影し、3 コマ撮影し終わると止まります。

- レンズは3コマ目のピント位置で停止します。そのまま連続してフォーカスABC撮影を行うと、3コマ目のピント位置を基準にして、フォーカスABC撮影を行います。フォーカスABCを行う毎に必ず1コマ目のピントに合わせを行ってください。
- ドライブモードを“S”にすると 1 コマ毎のフォーカス ABC 撮影になります。ドライブモードを“⏲2”または“⏲10”にすると、2または 10 秒後に連続撮影によるフォーカス ABC 撮影になります。

フォーカス ABC 撮影中は撮影順序を示すため、撮影可能コマ数カウンターが次のように変化します。

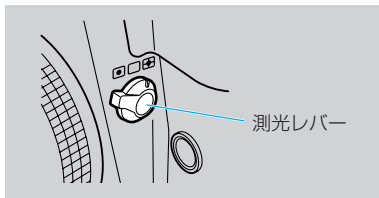
例えば残り 20 コマ目からフォーカス ABC 撮影を行った場合は次のようになります。

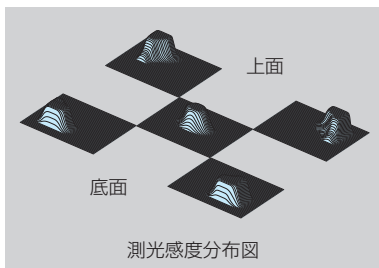
	1 コマ目	2 コマ目	3 コマ目
ピント位置	標準	前ピン	後ピン
カウンター	20	19	18
表示	左右点滅	左側点滅	右側点滅

- 途中で中止するときは、フォーカス ABC ダイヤルを“⬍”以外にしてください。
- フォーカス ABC 作動中にメインスイッチを“OFF”にして再度“ON”にすると、フォーカス ABC 撮影はまた 1 回目より順に3コマ分行われます。
- 撮影可能コマ数が2コマ以下のとき、1 コマ目は記録されますが、2、3コマ目は記録されないことがあります。
- 露出ABC（3コマ連続自動露出補正P60）と併用すると、1 コマ目のピント位置に対してまず露出ABCを行います。その後、1 コマ目の露出値でフォーカス ABC を行います。
- フォーカス ABC 撮影でストロボを使用する場合は、ドライブモードを“S”（1 コマ撮影）にして、ストロボの充電を確認して撮影してください。
- マウントアダプターNAM-1 を使用してCONTAX 645 用のレンズを装着したときは、このモードは使用できません。

撮影前の準備と操作確認

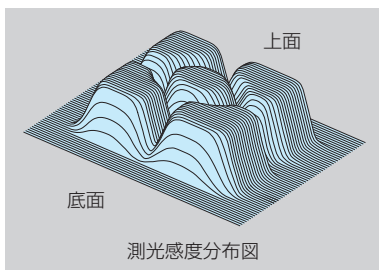
測光方式の選択

1. 測光方式の種類と特徴

このカメラには評価測光と中央重点平均測光及びスポット測光の３通りの測光方式があり、測光レバーで切り替えます。
撮影条件や撮影意図により使い分けると、より精度の高い効果的な写真撮影が行えます。

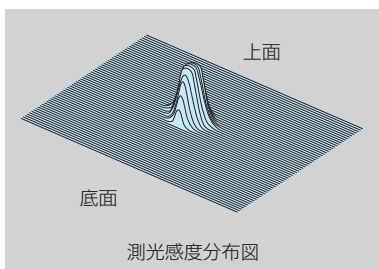
測光感度分布図

〈評価測光〉（⊞ マーク）

評価測光は、撮影画面を図のように５分割し、それぞれの部分を独立して測光し得られたデータから被写体の条件に最適な露出値を決めます。このため、**一般的な撮影はもちろん、逆光などの撮影でもほとんど露出補正なしに撮影することができます。**

CF ファインダー内露出メーターを評価測光と中央重点平均測光との差、あるいはスポット測光との差の表示に変更することができます。

測光感度分布図

〈中央重点平均測光〉（□ マーク）

主にファインダー画面中央部の被写体の明るさを重点的に、かつ周辺部の明るさも加味して測光を行い、露出値を決定する方式です。光の変化が激しいところでもよく対応しますので、**一般の撮影はもちろん、動きの激しいものでも容易に露出を決めることができます。**

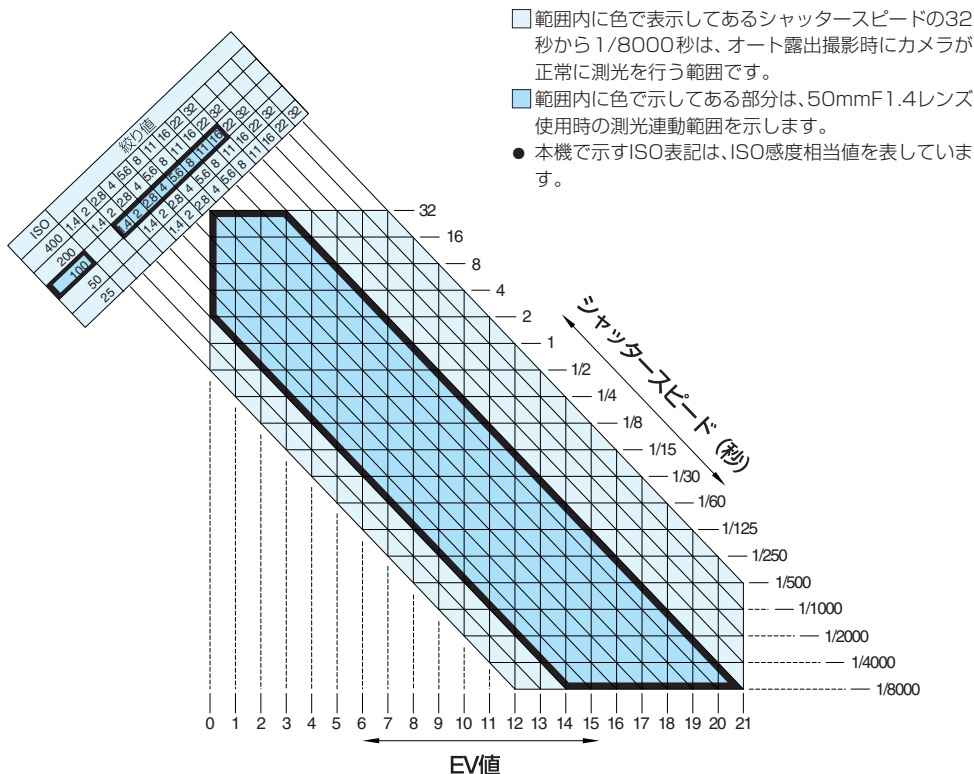
測光感度分布図

〈スポット測光〉（⊡ マーク）

ファインダー画面中央のほぼマイクロプリズム部の外周の円内にあたる被写体の明るさのみ測光して、露出を決める方式です。
たとえば、逆光の人物や特定の部分にライティングを活かした舞台撮影など、**被写体と背景の明るさが極端に違う場合**、また画面効果を考えて、**特に被写体の一部分だけを測光して撮影したい場合などは、このスポット測光を利用します。**

2. 測光連動範囲

□ 範囲内に色で表示してあるシャッタースピードの32秒から1/8000秒は、オート露出撮影時にカメラが正常に測光を行う範囲です。

■ 範囲内に色で示してある部分は、50mmF1.4レンズ使用時の測光連動範囲を示します。

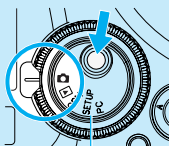
● 本機で示すISO表記は、ISO感度相当値を表しています。

〈測光連動範囲〉

表は、絞り、シャッタースピード、EV 値の相互関係を示すもので、使用レンズの測光連動範囲を表しています。たとえば中央重点平均測光時に撮影感度ISO100設定時にF1.4レンズを使用した場合、絞り表のISO100の項の“1.4”と“16”（プラナーT＊50mmの最小絞り値はF16です）から斜めに延長した線上で垂直線（EV線）と水平線（シャッタースピード線）が交わる点が示す両端の範囲すなわちEV“0”からEV“21”がF1.4レンズの使用時の測光連動範囲です。

※ EV値とは、露出計の連動範囲を示す数値で、外光の明るさが一定のときに、CCDに同一露光効果を与える絞りとシャッタースピードの組み合わせを示すものです。たとえば、表によりEV13では、F16,1/30秒でもF8,1/125秒でも同じ露光効果が得られることがわかります。

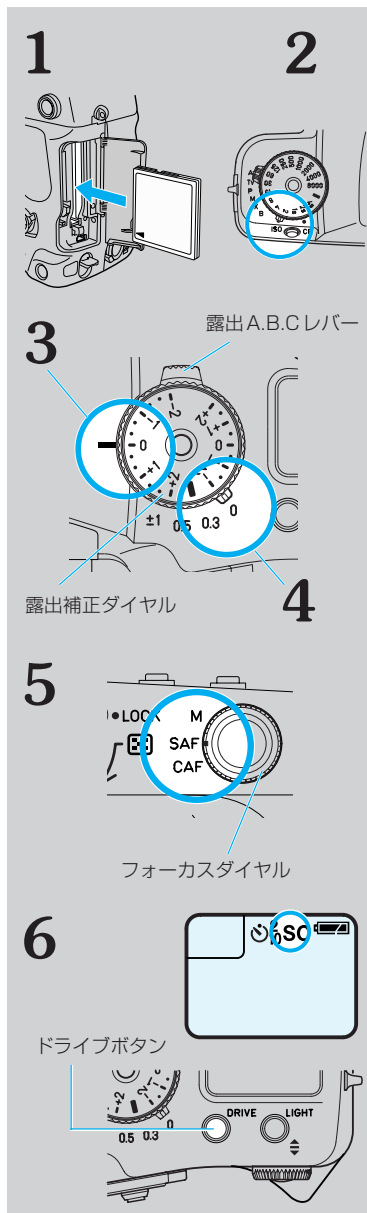
撮影方法

コンパクトフラッシュの撮影可能容量がなくなると、リア表示パネルの撮影可能コマ数表示が“0”で点滅しシャッターが切れません。撮影可能容量のあるコンパクトフラッシュに入れ替えてください。

簡単な撮影方法

モードダイヤル

モードダイヤルを“ [カメラアイコン] ”（撮影）モードにセットしてください。

1. プログラムオートを利用した撮影

プログラムオートを利用して簡単な撮影をしてみましょう。プログラムオートは被写体の明るさに応じて、撮影時のシャッタースピードと絞り値の組み合わせ（露出値）をカメラが自動的にセットします。初めてカメラをお使いになるかたや、露出設定を気にせず気軽に撮影したいかたにおすすめします。

あらかじめ、メインスイッチを“ON”、モードダイヤルを“📷”（撮影）モードにして各モードを次のようにセットします。

- 工場出荷時にホワイトバランスは“5500k”に、記録方式は“JPEG 1”にセットされています。変更したいときはそれぞれP51、49をご覧ください。

1 コンパクトフラッシュを入れます。

- 入れかたはP19をご覧ください。
- リア表示パネルに“CARD”が表示され“- - - -”が点滅したときは、コンパクトフラッシュを本機でフォーマットし直してください。（P83）

2 撮影感度をセットします。

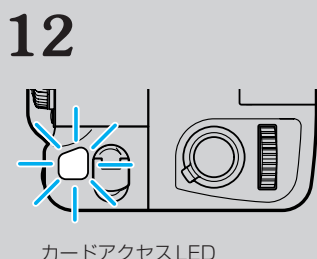
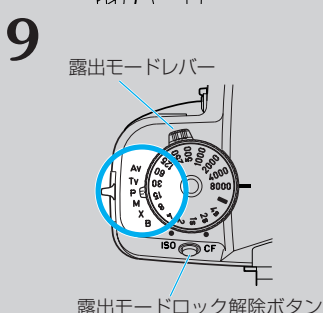
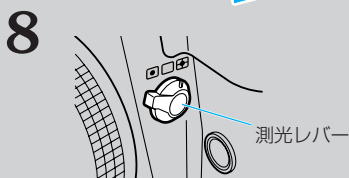
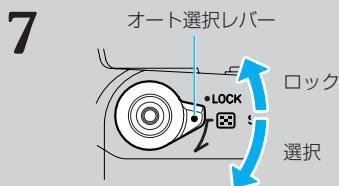
- セット方法はP50をご覧ください。

3 露出補正ダイヤルを“0”にセットします。

4 露出ABCレバーを“0”にセットします。

5 フォーカスダイヤルを“SAF”にします。

6 ドライブモードを“S”（1コマ撮影）にセットします。

- セット方法はP24をご覧ください。

7 オート選択レバーを矢印方向に数回動かしてトップ表示パネルのフォーカスフレーム選択表示を"[⁝⁝]"にし、レバーを上に動かしてロックします。

8 測光レバーを"[⊕]"(評価測光)にします。

9 露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを回して"P"にセットします。

10 ファインダー内のフォーカスフレームを被写体に向けてシャッターボタンを半押しします。
(フォーカスフレームは5個の内どれでも構いません。)

11 ピント合わせが行われ、被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったフォーカスフレームが一瞬赤く光り、合焦マーク"●"が点灯します。

12 シャッターボタン半押しのまま構図を決め、シャッターボタンをさらに押し込んで撮影します。

- シャッタースピードが長時間(約1秒以上)になるときは、画像にノイズが含まれることがあります。
- 長時間露光の場合は、記録方式をRAWで撮影し、RAWデータデベロッパーのダークコレクション機能を使用してノイズを減らすことができます。
- コンパクトフラッシュの撮影可能容量がなくなると、リア表示パネルの撮影可能コマ数表示が"0"で点滅しシャッターが切れません。撮影可能容量のあるコンパクトフラッシュに入れ替えてください。
- カードアクセスLEDが点滅中は、画像記録中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データやカメラが破損する原因になります。
  - ・カメラ本体に振動や衝撃を与える。
  - ・カードカバーを開ける。
  - ・電池や電源を取りはずす。

SET-UP セットアップメニューで"RECレビューあり"にセットしたときは、液晶モニターに撮影した画像が約5秒間表示されます。(RAWを除く)(P85)

2. 撮影画像の確認と消去

①標準画像（プレーン）表示

②×2.5ズーム表示

③×5ズーム表示

④ヒストグラム表示

〈撮影画像の確認〉

撮影終了するとコンパクトフラッシュに記録をしながら撮影画像を液晶モニターに５秒間表示します。(レックレビュー)

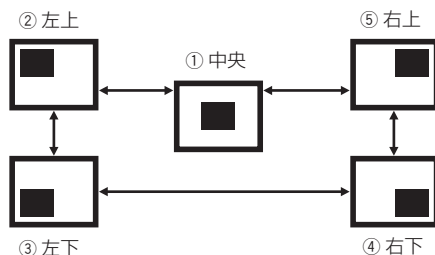
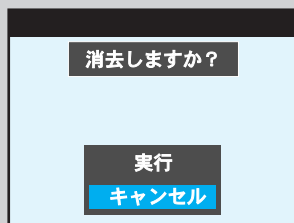
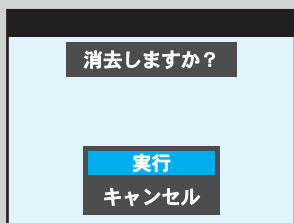
DISPLAYボタンを押すごとに表示内容が次のように変わり、ピントや撮影情報の確認をすることができます。
(セットアップで自動表示にすることができます。)

① 標準画像（プレーン）表示
② ×2.5ズーム表示
③ ×５ズーム表示
④ ヒストグラム表示（インデックス画像 / 露出モード シャッタースピード/絞り値露出補正値/輝度ヒストグラム / ＊ハイライト警告）
⑤ 標準画像（以後繰り返し）

＊ SET-UPでハイライトをONにセットしたとき(P85)

- レックレビュー表示中にDISPLAYボタンやリアコマンドダイヤルを操作したときは表示はさらに５秒間延長されます。
- レックレビュー中にシャッターボタンを押すと、撮影画像表示は消えます。
- レックレビュー終了後、再度撮影画像を確認したいときは、DISPLAYボタンを押してください。
- 記録方式が "RAW" の時は画像表示されません。また "TIFF" の時は一度メインスイッチをOFF→ONするとサムネイル表示になり、ズーム表示はされません。

ズーム表示とズーム位置の選択

ファインダー内の5箇所のフォーカスフレームの位置の画像を、それぞれ2.5倍、5倍に拡大して表示します。また、×2.5及び×5ズーム表示時、リアコマンドダイヤルを回して表示位置を次の順に変更することができます。

〈撮影画像の消去〉

撮影画像を確認し、不要であれば消去することができます。

1 **レックレビュー表示中に“🗑”ボタンを押すと消去モードになります。**

2 **リアコマンドダイヤルで“実行”を選んで“↵”ボタンを押します。**

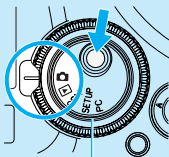
レックレビュー表示中の撮影画像は消去されます。

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

撮影方法

撮影目的に合わせた応用撮影

被写体や撮影目的に合わせて、最適な撮影モードを選択することができます。

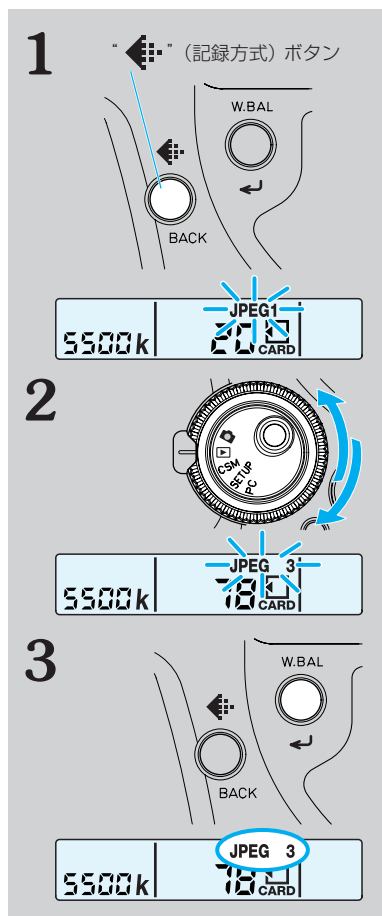
- シャッタースピードが長時間（約１秒以上）になるときは、画像にノイズが含まれることがあります。
- コンパクトフラッシュの撮影可能容量がなくなると、リア表示パネルの撮影可能コマ数表示が“0”で点滅しシャッターが切れません。撮影可能容量のあるコンパクトフラッシュに入れ替えてください。

モードダイヤル

モードダイヤルを“📷”（撮影）モードにセットしてください。

● 記録方式の選択

撮影する画像の記録方式は次の５種類から選ぶことができます。

記録方式	１コマのサイズ	撮影可能コマ数	
		64MB	510MB
RAW	約　9.0MB	約６コマ	約57コマ
TIFF	約18.0MB	約３コマ	約28コマ
JPEG 1	約　3.0MB	約20コマ	約169コマ
JPEG 2	約　1.5MB	約39コマ	約335コマ
JPEG 3	約　0.8MB	約78コマ	約659コマ

- 撮影可能コマ数は当社撮影基準によります。
- JPEG撮影時、１コマのサイズ、撮影可能コマ数は被写体や撮影モードにより異なります。
- RAWで記録した画像をコンピューターで開くには、別売の専用ソフトが必要です。（コンタックスRAWデータデベロッパーキット）

1 **“ ”ボタンを１秒以上押し続けると、リア表示パネルの“記録方式表示”が点滅します。**

2 **リアコマンドダイヤルを回して、希望の記録方式を点滅表示させます。**

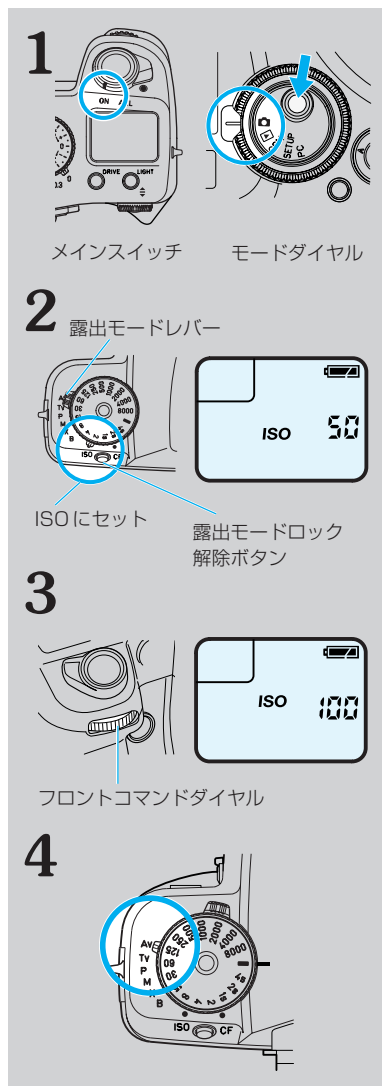
- “ ”ボタン押し、メインスイッチOFF、カードカバー“OPEN”すると変更設定がキャンセルされます。

3 **“↵”ボタンを押すと点滅表示が点灯表示になり撮影記録方式が決定します。**

- シャッターボタン半押し、モードダイヤル切り替えでも記録方式が決定します。

● 撮影感度（ISO感度）の選択

ISO感度とは、銀塩フィルムがどの程度の光まで感応するかを数値で表したものです。このカメラの感度はこのISO感度相当値を表しています。ISO値が小さいほど光に対する感度が低くなります。シャッタースピードを遅くしたり、絞りを開けて撮影することができます。ISO値が大きいほど光に対する感度は高くなります。少ない光の量で感応しますので、暗いところでの撮影や高速シャッターでの撮影ができます。しかし画像にノイズが入ったりする場合がありますので、撮影状況に合わせて感度を設定してください。

- 設定できる感度の範囲はISO25～400です。
- ISO感度が高い状態での撮影（特にISO200以上の撮影）では画像にノイズが含まれる場合があります。

1 メインスイッチをONにし、モードダイヤルを“📷”モードにセットします。

2 露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを“ISO”にセットします。

トップ表示パネルに“ISO”と“感度値”が表示されます。

3 フロントコマンドダイヤルを動かして、希望の感度値にします。

25⟷32⟷40⟷50⟷・⟷320⟷400⟷25（繰り返し）

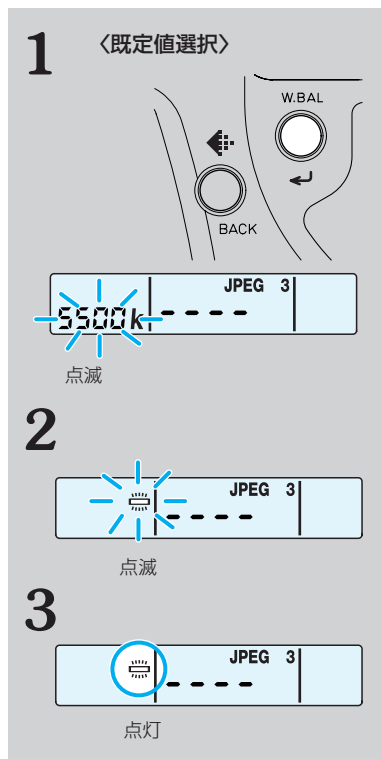
4 露出モードレバーを露出モードに戻してください。これでセット完了です。

表示は通常表示に戻ります。

- セットした感度値は、次にセットし直すまで記憶されています。
- 露出モード切り替えレバーが“ISO”、“CF”のときは撮影できません。

● ホワイトバランス（光源色補正）のセット

光の状況に応じて順応する人間の目と異なり、このカメラに使用しているCCDは白を白く写すために太陽光や室内の電球・蛍光灯などの光源に合わせて色補正が必要です。
このカメラのホワイトバランスのセットは“既定値選択”または“ワンプッシュ”方式で行います。

- 工場出荷時は“既定値選択の5500k”にセットされています。“ワンプッシュ”を使用したい場合はP85“SET-UP”をご覧いただき設定し直してください。

〈既定値選択〉

1 **メインスイッチON時、“W.BAL”ボタンを1秒以上押し続けると、リア表示パネルのホワイトバランス表示が点滅します。**

2 **P52の表を参考に、リアコマンドダイヤルを回して希望の既定値を点滅させます。**

既定値は次の順に切り替わります。
5500k←→4700k←→4200k←→3700k←→3300k←→3000k←→2800k←→2600k←→AUTO←→（ストロボ）←→（蛍光灯）←→8200k←→6500k←→5500k（以後繰り返し）

- カメラが自動的に決める“AUTO”、特定の光源に合わせる“ ”、“ ”及び各色温度値の中から選ぶことができます。
- “AUTO”設定時、明るさがLV9以下になるときは色温度が“5500k”に固定されます。
- 各色温度値は、フィルムカメラの色温度変換フィルターで使用の単位でいいますと、約30ミレッド間隔でセットできます。
- ホワイトバランスを利用してブルー系補正やアンバー系補正を強調した写真づくりもできます。

3 **“↵”ボタンを押すと点滅が点灯になりセット値が確定します。**

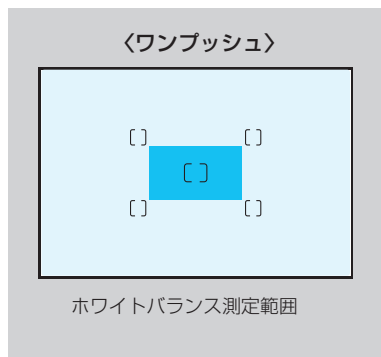
〈ワンプッシュ〉

［ ］ ［ ］ ［ ］ ［ ］ ［ ］

ホワイトバランス測定範囲

〈ワンプッシュ・プリセット〉

いろいろな光源がミックスしているときや、より厳密なホワイトバランスをとりたいときにはこのモードにしてください。
左図を目安にホワイトバランスの基準としたいもの(白色板など)がホワイトバランス測定範囲の全てを占めるまで近づき、“W.BAL”ボタンを押すと、実際に画像を取り込んで最適な色温度をセットします。

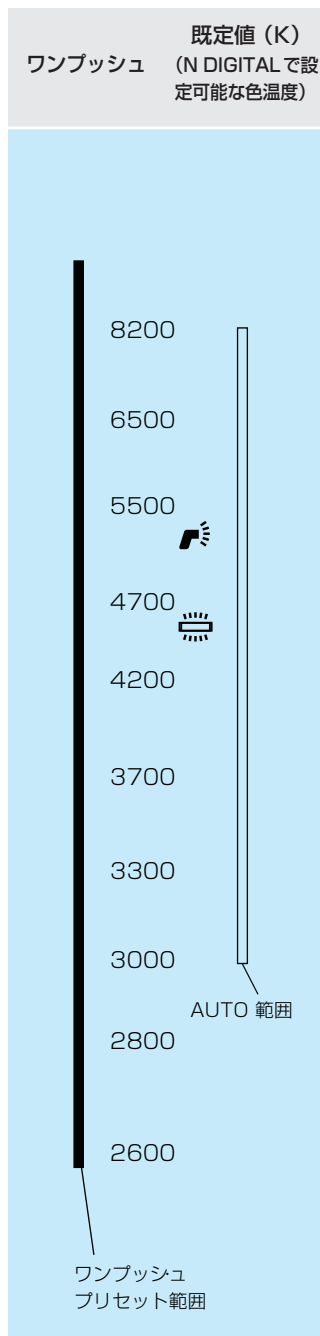
- セットした色温度は記憶され続けます。光源が変わった時はセットし直してください。

〈各光源に対する色温度とミレッド値〉

光源（目安です）	色温度（K）	※ミレッド値
天空光		
	10000	100
日陰		
CIE-C 光源	6740	
		150
平均昼光（太陽光＋天空光）		
フォトグラフィック・ディライト	5500	182
カーボンアークライト	5000	200
CIE-B 光源	4870	
夕日		
マグネシウム閃光	4000	250
500W フォトランプ	3400	294
	3333	300
500W フラッドランプ	3200	313
		350
CIE-A 光源	2854	
	2500	400
電球		

※ ミレッド値
色温度の逆数に100万をかけた値で、
色温度表示法の一つです。

ワンプッシュ	既定値（K）（N DIGITAL で設定可能な色温度）
	8200
	6500
	5500
	4700
	4200
	3700
	3300
	3000
	2800
	2600

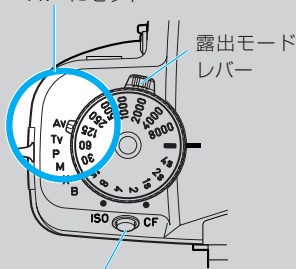
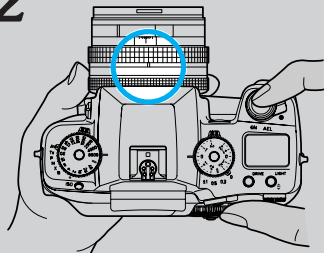
AUTO 範囲

ワンプッシュ
プリセット範囲

1. 絞りを決めて撮る“Av”（絞り優先オート撮影）
（Av とは Aperture value の略で絞り量のことです。）

絞りをセットすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的にシャッタースピードをセットします。

作例１： 絞りを開けて撮影すると、鮮明に写る範囲（＊被写界深度P65）が狭くなります。被写体を浮かび上がらせ、背景をぼかしたいときなどに利用します。

作例２： 絞りを絞り込んで撮影すると鮮明に写る範囲（＊被写界深度）が広くなります。被写体も背景も鮮明に写したいときなどに利用します。

作例１：絞りを開けた場合　　**作例２**：絞りを絞り込んだ場合

1 露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを“Av” にセットします。

2 レンズの絞りリングを回して絞りをセットし、撮影します。

シャッターダイヤルはどの位置にセットしていてもかまいません。

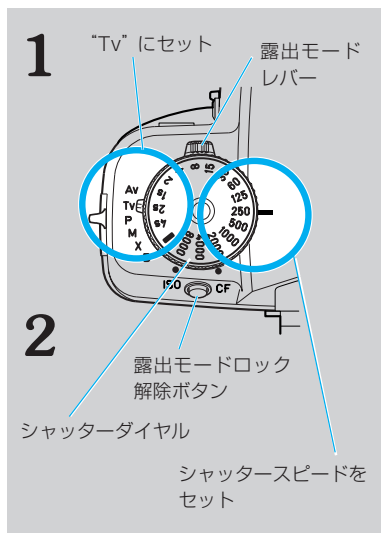
トップ表示パネルとファインダー内にセットした絞りと自動セットされたシャッタースピードが表示されます。

2. シャッタースピードを決めて撮る“Tv”(シャッター優先オート撮影)
(Tv とは Time Value の略で時間量のことです。)

シャッタースピードをセットすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的に絞りをセットします。

動きのある被写体などの撮影に適しています。次の作例を参考に目的に合わせてシャッタースピードを調節してください。

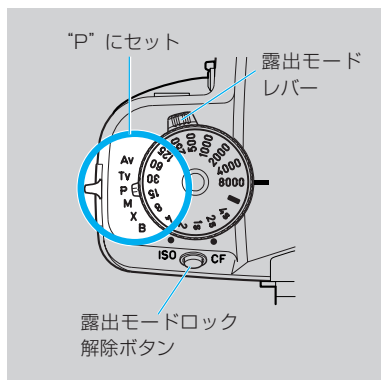
作例１： 被写体の動きの瞬間を撮影したいときは、速いシャッタースピードにセットします。
作例２： 水の流れ等を表現したいときは、遅いシャッタースピードにセットします。

● 遅いシャッタースピードのときはカメラぶれ防止のため、三脚をご使用ください。

1 **露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを“Tv”にセットします。**

2 **シャッターダイヤルを回してシャッタースピードをセットし、撮影します。**

絞り目盛りはどの位置にセットしていてもかまいません。トップ表示パネルとファインダー内にセットしたシャッタースピードと自動セットされた絞りが表示されます。

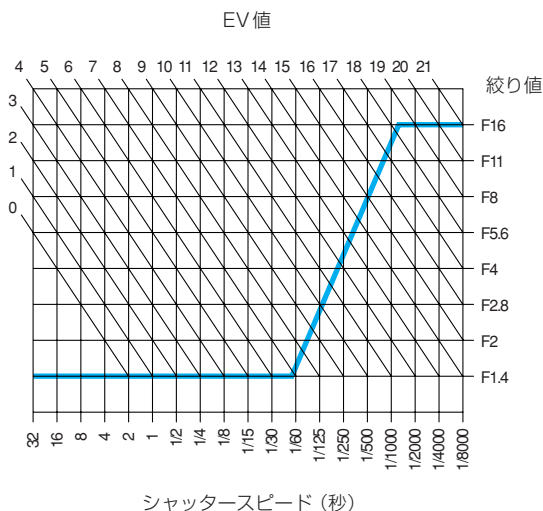
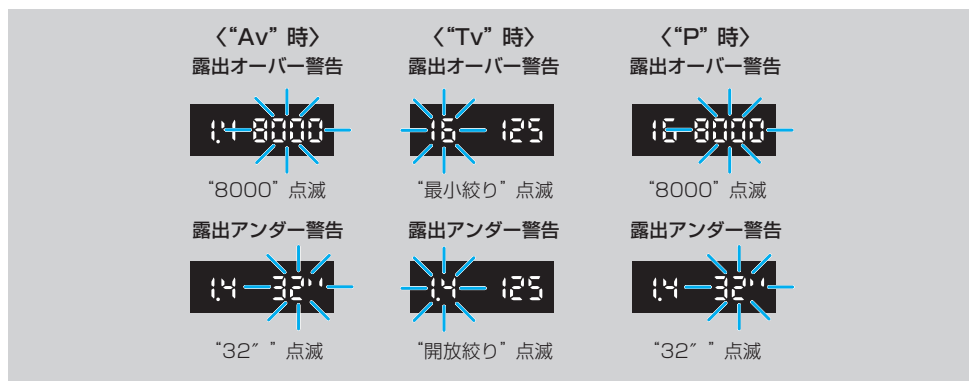
3. プログラムオートで撮る“P”(プログラムオート撮影)

あらかじめプログラムされている絞りとシャッタースピードの組み合わせの中から、被写体の明るさに適した組み合わせをカメラが自動的に選びます。露出を気にせず、気楽に撮影するときに便利です。

1 露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを“P”にセットします。

2 撮影します。

自動セットされた絞りとシャッタースピードがトップ表示パネルとファインダーに表示されます。絞り目盛りとシャッターダイヤルの位置はどこにセットされていてもかまいません。

〈プログラムオート制御図〉

プログラムオートでの絞りとシャッタースピードの組み合わせは図のようになります。またこのプログラムラインは、レンズの焦点距離によってシフトします。
(50mm F1.4 レンズ使用、ISO100 にセット)

〈オート露出撮影時の警告表示について〉

露出オーバー警告

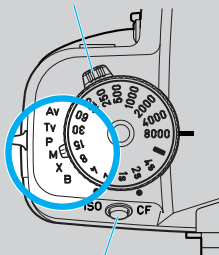
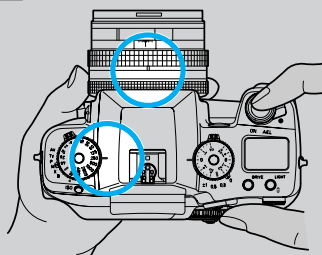
絞り優先オート撮影時にはシャッタースピード“8000”が点滅、シャッター優先オート時には装着レンズの“最小絞り値”が点滅、プログラムオート撮影時にはシャッタースピード“8000”が点滅し露出オーバーの警告をします。被写体が明るすぎますので、絞りまたはシャッタースピードを調整し直したり、撮影感度を下げるなどして点滅表示が点灯表示になるようにしてください。また別売りや市販のND フィルター（光量制限用）で光を調整することもできます。

露出アンダー警告

絞り優先オート撮影時にはシャッタースピード“32″ ”が点滅、シャッター優先オート時には装着レンズの“開放絞り値”が点滅、プログラムオート撮影時にはシャッタースピード“32″ ”が点滅し露出アンダーの警告をします。被写体が暗すぎますので、照明を加えて被写体を明るくしたり、シャッタースピードや絞り、撮影感度を変えて点滅表示が点灯表示になるようにしてください。また、専用のストロボを使うと明るくきれいな写真が撮れます。

- 露出オーバー／アンダー警告時でも、シャッターボタンを押せば撮影できます。

4. 自分で露出を決めて撮る“M”（マニュアル露出撮影）

絞りとシャッタースピードを撮影意図や目的に合わせて任意にセットし、撮影する方法です。また意図的に露出オーバーやアンダーにすることも簡単にできます。ファインダー内露出メーターの表示を参考に露出を決めてください。

1 露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを“M”にセットします。

2 シャッタースピードと絞りをセットします。

ファインダー内には、セットしたシャッタースピードと絞りが点灯表示されます。
露出メーターには適正露出との差が表示されます。シャッターダイヤルまたはレンズの絞りリングを動かし、露出メーター表示を“適正”にしてください。

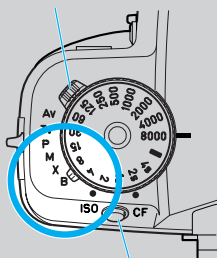
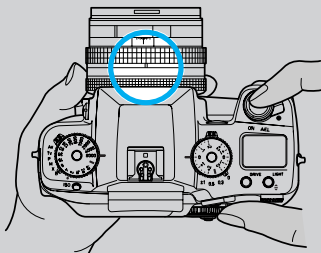
3 ピントを合わせ撮影します。

5. バルブ撮影“B”

イメージ写真

長時間露光を必要とする夜間撮影や天体撮影を行うときに使用します。

- バルブ撮影ではレンズを太陽光に向けないでください。
  撮像部破損の原因になります。

1

1 露出モードロック解除ボタンを押しながら、露出モードレバーを“B”にセットします。

ファインダー内表示パネルのシャッタースピード表示部に“buLb”と表示されます。

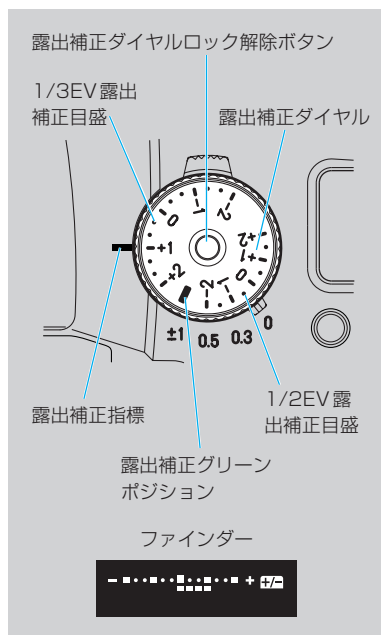
2

2 絞りをセットし撮影します。

シャッターボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。

- カメラぶれを防ぐため、三脚で固定するか、安定した台などに置き、別売りのケーブルスイッチLAタイプをカメラに接続して撮影してください。
- 露光中、表示パネルの撮影可能コマ数カウンターはバルブ撮影の経過時間を示すタイマー表示に切り替わります。表示は“00”から“59”（59秒）までカウントされ以後その繰り返しになります。
- 露光中は、ファインダー内表示がすべて消えます。
- シャッタースピードを“長秒時（約1秒以上）”や“B”（buLb）にセットした撮影の時は、画像にノイズが含まれる場合があります。
- 長時間露光の場合は、記録方式をRAWで撮影し、RAWデータデベロッパーのダークコレクション機能を使用してノイズを減らすことができます。
- PCモード時、パソコンからの操作によるバルブ撮影はできません。

6.露出を補正して撮る

オート露出撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合、あるいは意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときには、次の２通りの露出補正方法があります。

〈露出補正ダイヤルの利用〉

補正値を決めて撮るときは露出補正ダイヤルを使用します。

露出モードが“Av、Tv、P、M”いずれの場合も通常は露出補正ダイヤルを“0”にセットしておきますが、露出を補正するときは、露出補正ダイヤルを回して希望する補正値を露出補正指標に合わせてください。補正値は＋2EV～－2EVまでの範囲内で1/3EVまたは1/2EVごとにセットすることができます。

補正値と“＋／－”マークがファインダー内露出メーターに点灯表示されます。

- 1/3EVと1/2EVの切り替えは、露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回して行います。

露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート（Av）	シャッタースピード
シャッター優先オート（Tv）	絞り
プログラムオート（P）	絞りとシャッタースピード

- “M”時は、露出補正ダイヤルによる露出補正はできません。露出を補正するときは、露出メーターに適正露出との“差”が表示されますので、シャッタースピードダイヤルまたは絞りリングを動かし、メーター表示を希望する“差”（補正量）になるようにして撮影してください。
- 撮影終了後は、必ず補正ダイヤルを“0”に戻してください。

（＋補正）

（補正なし）

逆光撮影などのときは・・・
“＋1/3EVまたは＋1/2EV～＋2EV”の範囲で補正します。

中央重点平均測光の場合、逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出を＋1/3EVまたは＋1/2EV～＋2EVの範囲で補正して、露出を多く与えます。

（－補正）

（補正なし）

作例写真はイメージ写真です。

暗い背景などのときは・・・
“－1/3EVまたは－1/2EV～－2EV”の範囲で補正します。

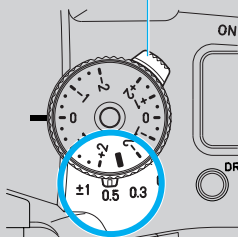
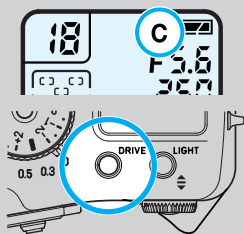
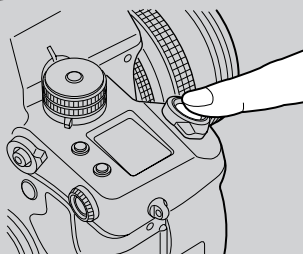
スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、中央重点平均測光で撮影すると人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出を－1/3EVまたは－1/2EV～－2EVの範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

〈露出を自動的に３段階変えて撮る（露出ABC撮影）〉

露出ABCモードにセットすると、自動的にスタンダード、オーバー、アンダー、と３段階の露出バリエーションで連続撮影ができます。
非常に微妙な露出条件のもとででも、露出決定に気を取られることなくシャッターを押し続け、チャンスを確実にものにすることができます。

※ABC：Automatic Bracketing Control

露出ABC撮影は、シャッタースピードまたは絞りを制御して自動露出補正を行います。

露出モード	制御内容
“Av”絞り優先オート	シャッタースピード
“Tv”シャッター優先オート	絞り
“P”プログラムオート	絞りとシャッタースピード
“M”マニュアル露出	シャッタースピード

1 露出ABCレバーを動かし、補正幅をセットすると、露出 ABC 撮影に切り替わります。

補正幅は± 0.3EV ± 0.5EV、± 1EV の 3 種類が設定できます。

- 露出補正ダイヤルを“0”以外にセットすると、その補正値を基準にした露出 ABC 撮影になります。
- 撮影するごとに測光し直し、その時の測光値に対して補正を行います。周囲の明るさの変化による影響を受けずに露出ABC撮影がしたいときは、あらかじめAEロックをしてから撮影することをおすすめします。
- 露出ABC撮影が終了したら、必ず露出ABCレバーを“0”に戻してください。
- ストロボを併用する露出ABC撮影はできません。

2 ドライブモードを“C”（連続撮影）にセットします。

- ドライブモードのセット方法はP24をご覧ください。

3 被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを押し続けます。

セットした補正幅に従って、スタンダード、オーバー、アンダー、の順で撮影し、3コマ撮影し終わると止まります。

- 撮影可能コマ数が 2 コマ以下のとき、1 コマ目は記録されますが、2、3 コマ目は記録されないことがあります。

ドライブモードを“S”にすると 1 コマごとの露出ABC撮影になります。

ドライブモードを“Ⓢ2”または“Ⓢ10”にすると、2または10 秒後に連続撮影による露出 ABC 撮影になります。

露出 ABC 撮影中は撮影順序を示すため、撮影可能コマ数カウンターが次のように変化します。

スタンダード：両方の桁が点滅
オーバー　　：左側の桁のみが点滅
アンダー　　：右側の桁のみが点滅

- ファインダー内には“E”マークが点灯します。

スタンダード

オーバー

アンダー

例えば 15 コマ目から露出 ABC 撮影を行った場合は次のようになります。

	1 コマ目	2 コマ目	3 コマ目	(以後繰り返し)
補正：	スタンダード	オーバー	アンダー	スタンダード
カウンター：	15	14	13	12
表示：	左右点滅	左側点滅	右側点滅	左右点滅

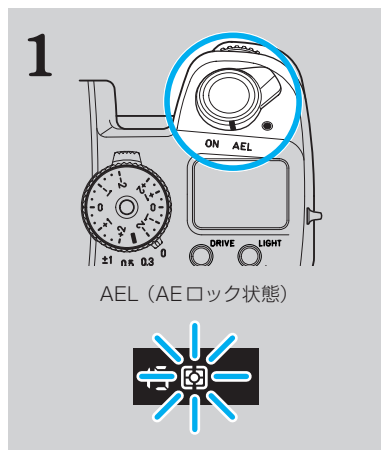
- 補正幅がカメラの補正限界を越えるときは、限界補正値で撮影されます。
- 途中で中止するときは、露出ABCレバーを“0”にしてください。
- 露出ABC作動中にメインスイッチを“OFF”にして再度“ON”にすると、露出ABC撮影はまた1回目より順に3コマ分行われます。

CF 補正順序を、オーバー→スタンダード→アンダーに変更することができます。(P91)

〈露出を固定して撮る（AEロック)〉

オート露出撮影時に、被写体の露出（絞りとシャッタースピードの組み合わせ）を記憶する機構です。

逆光時での撮影や動く被写体を一定の露出で連続撮影するときなど、露出を固定したいときに使います。

AEL（AEロック状態）

1 意図する構図のうち、まず主要被写体にファインダーの中央部分を向け、メインスイッチを“ON”→“AEL”に切り替えます。これで露出が固定（AEロック）されます。

特に狭い範囲に露出を合わせたいときは、測光レバーをスポット測光にしてAEロックしてください。

- AEロック中は、ファインダー内の測光マークが点滅に変わります。
- AEロックのセットは、ファインダー内表示が点灯しているときに行ってください。

CF シャッターボタン半押しで“AEロック”するように変更できます。(P91)

CF 露出チェックボタンを押すと“AEロック”するように変更できます。(P91)

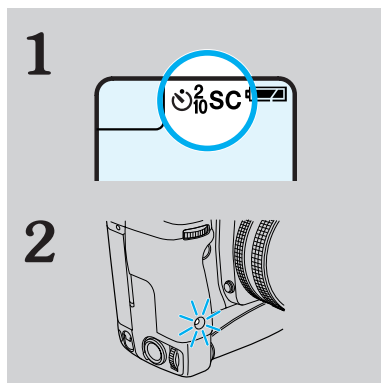
2 ファインダーを元の意図した構図に戻して撮影します。

- AEロック中は、露出が記憶され続け、何度でも同じ露出値で撮影できます。表示は省電のため16秒経過後に消灯します。
- 連続撮影（ドライブモード“C”）するときも、あらかじめ被写体の明るさをAEロックしておけば背景の変化による影響を受けずに同じ露出の写真が得られます。
- このカメラは、シャッタースピードと絞りの組み合わせで得られる露出を記憶する、像面光量記憶方式を採用しています。例えば、“Av”のときは、AEロック後に絞りを変えるとシャッタースピードも追従して変化し、全体の露出量を一定に保ちます。
- AEロック中に露出補正ダイヤルを変更すると、露出モードにより露出補正内容は次のようになります。

露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート（Av）	シャッタースピード
シャッター優先オート（Tv）	絞り
プログラムオート（P）	絞りとシャッタースピード

7. セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影には、次の2種類があります。

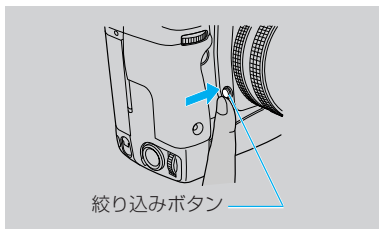
"⏲10"（10秒）：記念撮影など、ご自身も一緒に写りたいときに使用します。
"⏲2"（2秒）　：接写や複写時のカメラぶれ防止に有効です。

1 ドライブモードを"⏲10"または"⏲2"にセットします。

● ドライブモードのセット方法はP24をご覧ください。

2 ピントを合わせ、シャッターボタンを押してください。

セルフタイマーが作動し、10秒または2秒後にシャッターが切れ撮影が行われます。セルフタイマー作動中、カメラ前面のセルフタイマーLEDが点滅します。

● ファインダーから目を離してのオート撮影では、接眼部からの入射光の影響で適正露出が得られない場合があります。このような場合は、アイピースシャッターを閉じて撮影してください。
● セルフタイマー撮影時は三脚をご使用ください。
● セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマー作動が最初に戻り、再スタートします。
● セルフタイマー作動を途中で中止するときは、メインスイッチをOFFにしてください。
● "⏲2"のときは、ミラーアップしてからセルフタイマーが作動します。
● セルフタイマー撮影と露出ABCまたはフォーカスABC撮影を併用する場合は、コンパクトフラッシュの撮影可能コマ数をよく確認の上ご使用ください。
撮影可能コマ数が足りない場合は、撮影されたデータが記録されない場合があります。

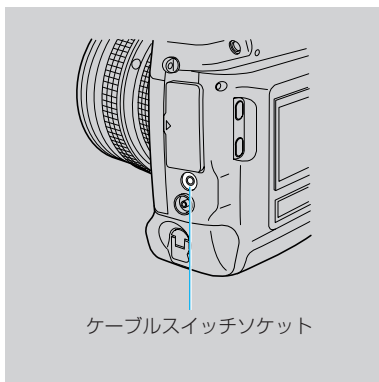
8. 被写界深度の確認

レンズの一般的性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。ファインダーは常に絞り開放の状態になっていますが、**絞り込みボタンを押すとセットした絞り値まで絞り込まれ、被写界深度の確認と背景のぼけ具合を見ることができます。**

- ファインダー内は絞り値に応じて暗くなります。
- 絞り込みボタンを押したまま露出の確認や撮影をしても、適正露出は得られません。

〈被写界深度について〉

同じレンズでの被写界深度は次のように変化します。

① 絞りを絞り込むほど被写界深度が深く（前後に広く）、開放にするほど浅く（前後に狭く）なります。
② 被写体の距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。
③ ピントを合わせた被写体の後方に深く、前方に浅くなります。また異なるレンズでは、焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。

9. ケーブルスイッチソケット

ケーブルスイッチ LA タイプやオートベローズを接続する接点で、これらアクセサリーからの電気信号を伝え、シャッターを作動させます。

- ケーブルスイッチLAタイプを使う撮影で、ファインダーから目を離すオート撮影では接眼部からの入射光の影響で適正露出が得られない場合があります。このような場合は、アイピースシャッターを閉じて使用してください。

撮影方法

ストロボ撮影

室内や夜間の撮影で、シャッタースピードが 1/30 秒以下になるときは、ストロボの使用をおすすめします。このカメラとコンタックスTLAフラッシュシステムを組み合わせるとカメラ側でストロボ光を自動制御する“TTL ダイレクト測光”による撮影が行えます。

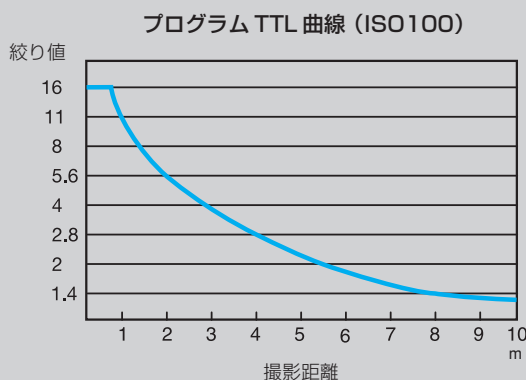
TLA360 ストロボをご使用のときは、必ず「2. 当社 TLA360 ストロボを使用した撮影」の項（P70）をあわせてご覧ください。

また、X 接点のみの汎用ストロボをご使用する場合には、露出モードレバーを“X”にセットしてご利用いただけます。（P72）

1. 当社 TLA ストロボを使用した撮影

[ストロボ撮影について]

CONTAX N DIGITAL のストロボ制御は、CCD センサー面から反射してきたストロボ光を測光してストロボの光量をコントロールするTTLダイレクト調光方式を採用しています。CCD センサー面は、銀塩フィルムと異なり、反射率・拡散率が低いため、近距離で露出オーバーになる傾向があります。これを防ぐため、N DIGITAL では、下のグラフに示す距離によって制御する絞り値を制限するプログラムTTL制御を採用しています。**カメラにセットしている撮影モードによって決定される絞り値がプログラムTTL曲線で示す値より明るい場合は、絞りはプログラムTTL曲線の値で制御されます。プログラム TTL 制御はストロボモードにかかわらず、カメラの露出モードが Av、Tv、P の時に働きます。**

CF CF（カスタムファンクション）でAv、Tvの時にプログラムTTL制御を無効にすることができます。Avで外部調光オートストロボを使用したい場合にお使いください。（CF19-1）（P91）

[各露出モードと使用可能なストロボモード（当社 TLA ストロボ使用時）]

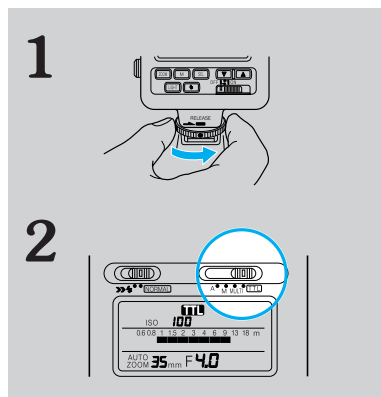
標準設定（CF19-0）のとき（○：使用できます。　×：使用しないでください。）

露出モード	TTL オート	外部調光オート	マニュアルストロボ
Av	○	×	×
Tv	○	×	×
P	○	×	×
M	×	○	○
X	×	○	○

変更設定（CF19-1）のとき（○：使用できます。　×：使用しないでください。）

露出モード	TTL オート	外部調光オート	マニュアルストロボ
Av	×	○	○
Tv	×	×	×
P	○	×	×
M	×	○	○
X	×	○	○

〈TTLオートストロボ撮影〉

カメラの露出モードにより、以下のようにシャッタースピードの自動セット及び絞りが制御されます。

1 **カメラのアクセサリーシューにストロボを取り付け、ストロボの電源を入れます。**

2 **ストロボを“TTLオートモード”にセットします。**

充電が完了するとファインダー内に“ϟ”マークが点灯し、カメラの露出モードにより次のようにシャッタースピードが自動セットされます。

3 **撮影します。**

■ Av（絞り優先オート）のとき

自然光の測光値	自動セット シャッタースピード	シャッタースピード 表示	絞り値
32秒 ～ 1/60秒	1/60秒	“60”点灯	セットした絞りとプログラムTTL曲線で制御される絞り値の小さい方（暗い方）
1/60秒～1/250秒	1/60秒～1/250秒	“60”～“250”点灯	
1/250秒～1/8000秒	1/250秒	“250”点灯	

■ Tv（シャッター優先オート）のとき

シャッターダイヤルの セット	自動セット シャッタースピード	シャッタースピード 表示	絞り値
4（32）秒～1/250秒 （　）はフロントコマンドダイヤルセット時	（シャッターダイヤルセット値のまま）	シャッターダイヤルのセット値	自然光の測光値から決まる絞りとプログラムTTL曲線で制御される絞り値の小さい方（暗い方）
1/250秒～1/8000秒	1/250秒	“250”点灯	

■ P（プログラムオート）のとき

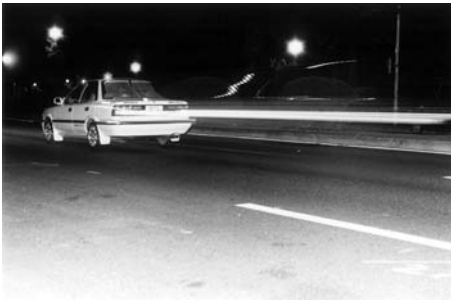
自然光の測光値	自動セット シャッタースピード	シャッタースピード 表示	絞り値
32秒 ～ 1/60秒	1/60秒	“60”点灯	プログラム露出で決定する絞りとプログラムTTL曲線で制御される絞り値の小さい方（暗い方）
1/60秒～1/250秒	1/60秒～1/250秒	“60”～“250”点灯	
1/250秒～1/8000秒	1/250秒	“250”点灯	

■ M（マニュアル）、X（ストロボ）、B（バルブ）のとき

TTLオートは使用できません。外部調光オート機能、あるいはマニュアルストロボをお使いください。
“M”はシャッタースピードの自動セットは行いません。

- 撮影後調光が行われたときはファインダー内“ϟ”マークが２秒間点滅します。
- 撮影後“ϟ”マークが点滅しないときは露出アンダーになりますので、絞りや撮影距離を変えて撮影し直してください。
- 近接撮影時、“ϟ”が撮影後点滅しても露出オーバーになることがあります。ストロボの取扱説明書記載の撮影範囲で撮影してください。
- 露出ABCレバーは必ず“0”にしてください。
- ドライブモードが“C”（連続撮影モード）の場合は、ストロボの性能をご確認ください。
- 感度はISO25～200に連動します。（露出補正は含みません。）

〈後幕シンクロ撮影〉

後幕シンクロは動きのある被写体をスローシンクロ撮影するときに効果があります。
（作例はイメージ写真です）

後幕シンクロ撮影

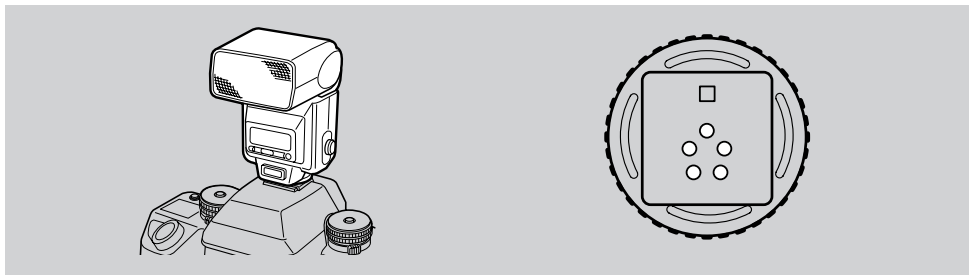
先幕シンクロ撮影

通常のストロボ撮影は、シャッターの先幕が走行を終えた直後にストロボを発光（先幕シンクロ）させて撮影します。このカメラと、後幕シンクロ機能のある当社ストロボとを組み合わせると、後幕が走行を始める直前にストロボを発光（後幕シンクロ）させることができます。
ストロボ光で照らされた被写体の後ろに、自然光で照らされた被写体の動きが流れるように写り、自然な動きを表現できます。

- 後幕シンクロの設定は、ストロボの取扱説明書をごらんください。
- 露出制御は、通常のストロボ撮影（先幕シンクロ）と同様です。

〈露出補正ダイヤルの利用〉

TTLオート撮影では、ストロボの発光量はカメラの露出補正ダイヤルに連動します。ストロボ光量を調整して効果を出したいときは、露出補正ダイヤルを利用してください。

2. 当社TLA360ストロボを使用した撮影

ガイドナンバー36（ISO100・35mmレンズ画角カバー時）の、クリップオンタイプのTTL自動調光方式パワーズームオートストロボです。ストロボオートセットの機能を備えていますので、本機と組み合わせると、従来のTTLオートストロボの機能に加えて次の六つの機能をもった使いやすいストロボです。

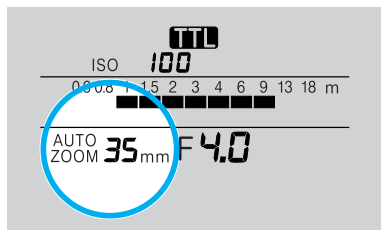
- これらの機能は、カメラ上部のアクセサリーシューに直接ストロボを取り付けた場合のみにご使用いただけます。TLA延長コードやTLA増灯システムを利用して、カメラのアクセサリーシューから離して使用するときは、ストロボには自動セットされません。
- ストロボオートセット機能を備えた当社TLAストロボはストロボ取り付け脚の接点が5箇所になっています。

〈1.オートセット機能〉

機能 ストロボ撮影モード	撮影感度の自動セット	絞り値の自動セット
TTLオート	○	○
外部測光オート	○	×
マニュアル	○	○
マルチ発光	○	○

○：カメラ側のセットによりストロボにも自動セットします。（ストロボ充電完了時）
×：ストロボには自動セットされません。

〈2. 照射角のオートセット〉

カメラに取り付けたレンズの焦点距離に合わせて、自動的にストロボの照射角がセットされます。

■ セットのしかた

カメラのアクセサリーシューにストロボを取り付け、ストロボの電源を"ON"にするとカメラに取り付けたレンズに合わせてストロボの照射角が自動的にセットされます。
このときストロボの表示パネルには、自動セットされた照射角が35mm用レンズの焦点距離で表示されます。

- セットされるレンズの焦点距離は、24mm、28mm、35mm、50mm、70mm、85mmです。
- ズームレンズ装着時は、上記の範囲でレンズのズーミングに連動します。
- ストロボの表示が"AUTO　ZOOM"のときレンズを交換すると、交換したレンズに合わせて照射角が再セットされます。

〈3. 照射角の手動セット〉

ストロボのズームボタンを押すと、手動セットになります。ズームボタンを押すごとにZOOM 焦点距離が切り替わりますので、希望の焦点距離を表示パネルに表示します。

〈4. ストロボ光量の補正〉

“TTLオートストロボ撮影”モードで行います。他のモードでは、補正することができません。

- 補正は－3EV～＋1EVの範囲で1/3ステップごとに行えます。
- ストロボの補正は、カメラの露出補正の値を基準にして発光量を補正します。たとえば、カメラの露出補正を“＋1”、ストロボ側の補正を“＋1”とすると、ストロボの発光量は＋2EVになります。

1 ストロボの“SEL”ボタンを押します。

- ストロボの表示パネルに補正目盛が表示され、“＋/－”マークが点滅します。

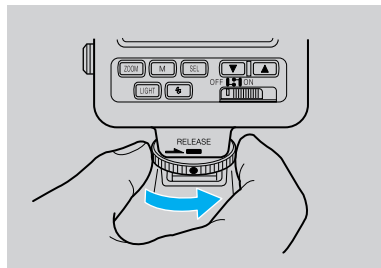
2 ストロボの“▲”“▼”アップ／ダウンボタンを押して補正目盛を希望する値にします。

3 再度“SEL”ボタンを押します。

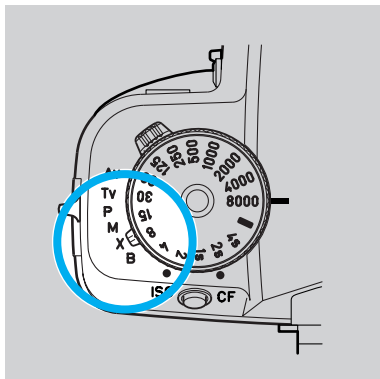
“＋/－”マークが点灯表示になり、補正のセットが完了です。

- ストロボ表示パネルの補正目盛は、ストロボ側の補正量を表示します。
- ストロボ側の補正量が“0”（補正しない）ときは、8秒後に補正目盛は消灯します。

〈5.“オートOFF”、“オートON”機能〉

ストロボの電源スイッチを“オートOFF”にセットしたとき、ストロボの電源が約80秒で自動的にOFFになります。またカメラのシャッターボタンを半押しすることで“オートON”になり、ストロボの充電が開始されます。
長時間のストロボ撮影時、省電効果があります。

〈6. シューストッパー〉

TLA360の“取り付け脚”には、ストロボが不用意にカメラからはずれないようにシューストッパー(抜け防止機構)がついています。カメラの取り付け、取り外しの際は必ず“取り付け脚”の指標にシューロックリングの指標を合わせてから行ってください。

※ 上記のほかにも多くの特徴を持ったストロボですので、TLA360の取扱説明書を併せてご覧になり、多彩なストロボ撮影をお楽しみください。

1 カメラにストロボを取り付け、露出モードレバーを“X”にセットします。

シャッタースピードは、1/125 秒になります。

● シャッタースピードはシャッターダイヤルがどの位置にあっても変わりません。

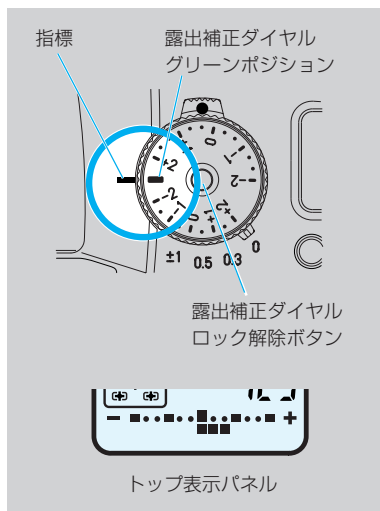
2 絞りをセットして撮影します。

絞りは使用するストロボの取扱説明書に従って決めてください。

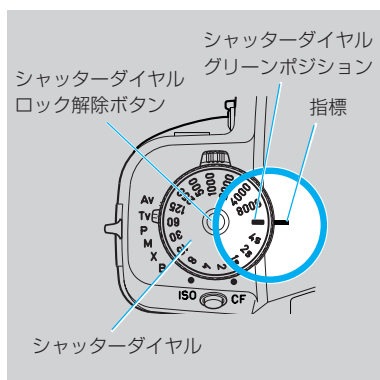
● ダイレクト接点ではない、コードを必要とするストロボは、カメラ側面のシンクロターミナルに接続してください。

フロントコマンドダイヤルの応用操作

ドライブモードや撮影感度の手動設定などの各種の設定に使っているフロントコマンドダイヤルを露出補正ダイヤル、またはシャッターダイヤルとして使うことができます。カメラを持ち直すことなく、ファインダーから目を離すことなく、撮影に集中したまま素早い操作を行うことができます。

1. 露出補正ダイヤルとして使う

露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回し、グリーンポジションを指標にセットしてください。
このときトップ表示パネルに露出補正目盛が表示され、露出補正量は 1/3 ステップになります。

CF CF設定で 1/2ステップにすることができます。（P91）

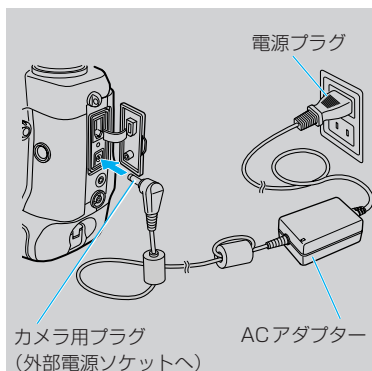
2. シャッターダイヤルとして使う

シャッターダイヤルのグリーンポジションを指標にセットしてください。

CF CF設定で 1/2ステップにすることができます。（P91）
- セットの解除はシャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながらシャッターダイヤルを回してください。

シャッターダイヤルおよび露出補正ダイヤルの両方共グリーンポジションにセットしたときは、設定されている露出モードにより、コマンドダイヤルの働きは次のようになります。
露出モード“Tv、M”：シャッタースピードの設定
露出モード“Av、P”：露出補正値の設定

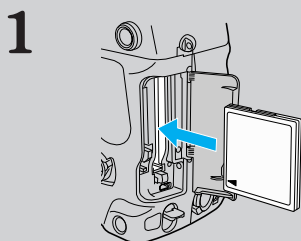
撮影画像の再生と消去

撮影した画像を見たり、撮影情報（露出やヒストグラムなど）の確認あるいは消去の方法について説明します。長時間使用するときはACアダプターにつないでください。

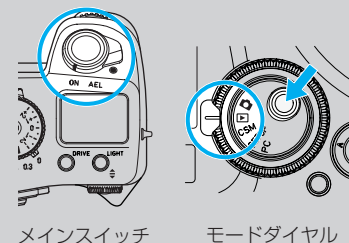
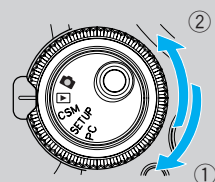
- 記録方式が“RAW”の時は画像表示されません。また“TIFF”のときはサムネイル表示になり、ズーム表示はされません。
- 画像再生オフ時間を変更することができます。（P85）

長時間使用する場合は、ACアダプターをつないでください。

ACアダプターの電源プラグを家庭用100Vコンセントに差し込み、カメラ用プラグをカメラの外部電源ソケットに差し込みます。

1 撮影済みのコンパクトフラッシュを入れます。（P19）

入れかたはP19をご覧ください。

2 メインスイッチをONにし、モードダイヤルを“▶”にします。

液晶モニターに、最後に撮影した画像が再生されます。

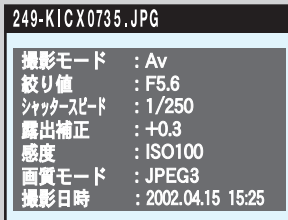
- 記録方式が“RAW”のときは画像表示されません。ブルー画面にファイル名のみ表示されます。また“TIFF”のときはサムネイル表示になります。

3 リアコマンドダイヤルを矢印①方向に回すと撮影した順に順送り、矢印②方向に回すと逆送りができます。

2. 再生画像のズーム表示と撮影情報表示

再生した画像を2.5倍と5倍に拡大してピントの確認をすることができます。また、撮影画像の撮影情報、露出情報・ヒストグラムなどの確認ができます。

〈標準画像（プレーン）表示〉

〈撮影情報表示〉

249-KICX0735.JPG

撮影モード　: Av
絞り値　: F5.6
ｼｬｯﾀｰｽﾋﾟｰﾄﾞ　: 1/250
露出補正　: +0.3
感度　: ISO100
画質モード　: JPEG3
撮影日時　: 2002.04.15 15:25

画像再生中にDISPLAYボタンを押すと押すごとに次のように表示内容が変わります。

標準画像（プレーン）表示→撮影情報→×2.5ズーム表示→×5ズーム表示→ヒストグラム表示→標準画像表示（以後繰り返し）

- 画像再生時、最初の画像表示を"ヒストグラム表示"にすることができます。（P85）
- どの表示画面であっても"BACK"ボタンを押すと最初の画像表示（標準画像またはヒストグラム表示）に戻ります。
- RAW画像は再生できません。パソコンでご確認ください。
- TIFF画像はズーム表示できません。

〈撮影情報〉

この画面では次の内容が表示されます。

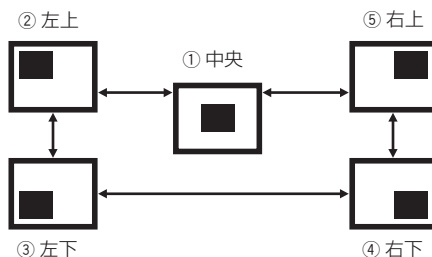
① 撮影モード
② 絞り値
③ シャッタースピード
④ 露出補正
⑤ 感度
⑥ 画質モード
⑦ 撮影日時

〈×2.5ズーム表示〉

〈×５ズーム表示〉

〈ヒストグラム表示〉

〈ズーム表示とズーム位置の選択〉

ファインダー内の5箇所のフォーカスフレームの位置の画像を、それぞれ2.5倍、5倍に拡大して表示します。また、×2.5及び×5ズーム表示時、リアコマンドダイヤルを回して表示位置を次の順に変更することができます。

〈ヒストグラム〉

この画面では次の内容が表示されます。

① 小さな画像、ハイライト警告（＊）
② 撮影モード
③ シャッタースピード
④ 絞り値
⑤ 露出補正
⑥ ヒストグラム（輝度分布グラフ）
（＊）セットアップメニューで⑥ハイライトをONに設定時

3. 撮影画像のプロテクト（保護）と消去

残したい画像を誤って消去しないように保護したり、不要な画像を消去することができます。

1

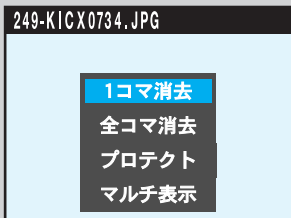
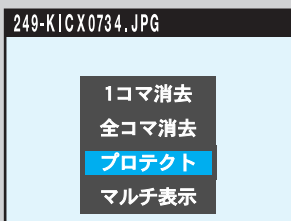
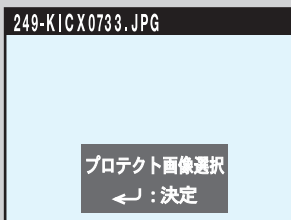
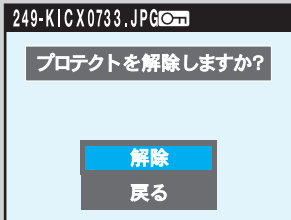
2

3

4

〈撮影画像のプロテクト（保護）〉

大切な画像を間違って消さないようにする機能です。この機能は複数の画像を削除するとき、全消去の機能と併用すると便利です。

> コンパクトフラッシュをフォーマット（初期化P83）すると、コンパクトフラッシュの記録内容はプロテクトした画像も含め全て消去されますのでご注意ください。

1 **画像再生中に“ ”（消去）ボタンを押すと図のような消去モード画面が表示されます。**

- 消去モード画面表示中に再度“ ”ボタンを押すと元の再生画像表示に戻ります。

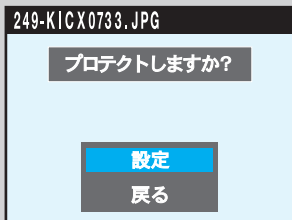
2 **リアコマンドダイヤルを回して“プロテクト”を選び“ ”ボタンを押します。**

3 **リアコマンドダイヤルでプロテクト（保護）する画像を選択し“ ”ボタンを押します。**

4 **“プロテクトしますか？”と画面表示が出ますので青窓が“設定”になっていることを確認して“ ”ボタンを押すと図のような画面になり、プロテクト完了です。“BACK”ボタンを押して3の画面に戻します。**

プロテクトされた画像は画面右上に“ ”マークが表示されます。

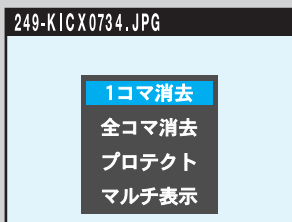
- プロテクトしないときは“戻る”を選んで“ ”ボタンを押すかまたは“BACK”ボタンを押してください。

プロテクトを続ける場合は3〜4を繰り返してください。また、操作の中止や終了は“BACK”ボタンを2度押して標準画面に戻してください。

プロテクトを解除するときは、1～3の操作を行うと“プロテクトを解除しますか？”の画面表示ができますので青窓が“解除”になっていることを確認して“↵”ボタンを押すとプロテクト解除になり図のような画面になります。“BACK”ボタンを2回押して2の画面に戻します。

1

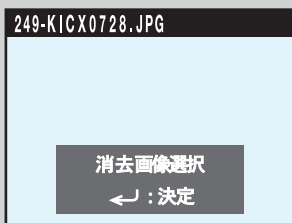
249-KICX0734.JPG
1コマ消去
全コマ消去
プロテクト
マルチ表示

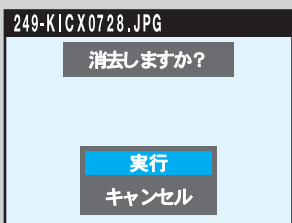
3

4

〈1 コマ消去〉

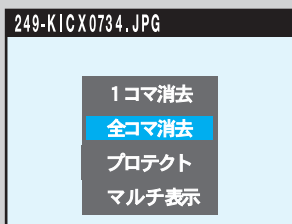
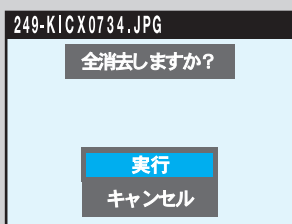
不要な画像を消去します。

1 画像再生中に“🗑”ボタンを押すと図のような消去モード画面が表示されます。

- 消去モード画面表示中に再度“🗑”ボタンを押すと元の再生画像表示に戻ります。

2 リアコマンドダイヤルで“1 コマ消去”を選び“↵”ボタンを押します。

3 リアコマンドダイヤルで消去画像を選択し“↵”ボタンを押します。

4 “消去しますか？”と画面表示が出ますのでリアコマンドダイヤルで“実行”を選びます。

- 消去しないときは“キャンセル”を選んで“↵”ボタンを押します。(BACK ボタンを押してもキャンセルできます。)
- プロテクト（保護）されている画像は消去できません。また“消去しますか？”の画面になりません。
- プロテクト(保護)されている画像はプロテクトをはずせば消去できます。P80)

5 “↵”ボタンを押すと、選んだ画像が消去されます。

〈全コマ消去〉

プロテクトされている画像を除いたすべての画像を消去します。

1 リアコマンドダイヤルで“全コマ消去”を選び“↵”ボタンを押します。

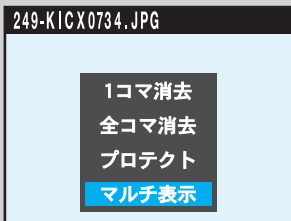
2 “全消去しますか？”と画面表示が出ますのでリアコマンドダイヤルで“実行”を選びます。

- 消去しないときは“キャンセル”を選んで“↵”ボタンを押します。
- プロテクト（保護）されている画像は消去できません。
- プロテクト(保護)されている画像はプロテクトをはずせば消去できます。P80)

3 “↵”ボタンを押すと、プロテクトされている画像を除いた全ての画像が消去されます。

1

249-KICX0734.JPG

1コマ消去
全コマ消去
プロテクト
マルチ表示

〈マルチ表示〉（画像の一覧表示）

液晶モニターに９画像ずつ再生します。画像を選ぶときに便利な機能です。またこの機能は再生・消去・プロテクトなどのメニューと併用して使うこともできます。

1 リアコマンドダイヤルで“マルチ表示”を選び“↵”ボタンを押します。

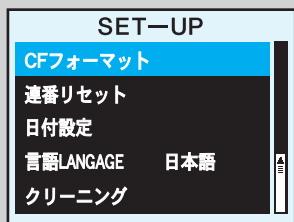
2

2 リアコマンドダイヤルで希望の画像を選びます。

3

3 “↵”ボタンを押すと、選んだ画像が再生され“1 コマ表示”の標準画像になります。

- “🗑”ボタンを押すと消去モード画面になり、“DISPLAY”ボタンを押すと再生モードの撮影情報画面になります。
- 2のマルチ表示の時、“🗑”ボタンを押すと消去モードメニューが併用できます。
- RAW 画像はブルー画面にファイル名のみ表示されます。また TIFF の画像はサムネイル表示になります。

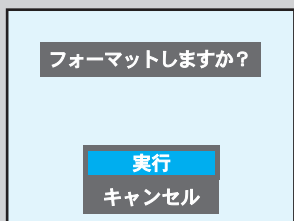
4. コンパクトフラッシュのフォーマット

コンパクトフラッシュをフォーマット（初期化）します。

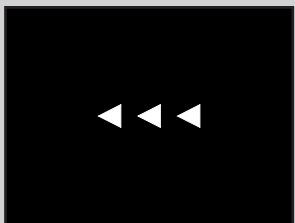
コンパクトフラッシュを初期化すると、コンパクトフラッシュの記録内容はプロテクトした画像も含め全て消去されますので、コンパクトフラッシュの記録内容を十分に確認してから行ってください。

1

SET―UP
CFフォーマット
連番リセット
日付設定
言語LANGAGE　日本語
クリーニング

1 モードダイヤルを“SETUP”にし、リアコマンドダイヤルを回して“CF フォーマット”を選びます。

2

2 “↵”ボタンを押すと“フォーマットしますか？”の画面になりますので、リアコマンドダイヤルを回して“実行”を選び“↵”ボタンを押します。

3

3 フォーマット中は画面表示が図のようになり、フォーマットが完了すると 1 の画面に戻ります。

- 他のカメラやコンピュータなどで初期化したコンパクトフラッシュを使用すると、正しく動作しない場合があります。その場合はこのカメラで初期化してください。

セットアップの使いかた

セットアップでは次に説明する 15 メニューがあります。
メニューの内容を希望の内容に設定することができます。

1. セットアップメニュー一覧表

このカメラには、次の表のように、15項目の“セットアップメニュー”を搭載しています。お買い上げ時は、標準的な機能（初期設定）にセットしてあります。
（この取扱説明書では“初期設定”の状態で説明しています。）
セットアップ設定内容を変更したい場合は「2.“メニュー内容”の変更のしかた」（P86）をご覧ください。

〈セットアップメニュー一覧表〉

メニュー内容 メニュー	初期設定	変更設定（1）	変更設定（2）	変更設定（3）	参照ページ
① 階調	標準	リニア	硬調	軟調	87
② 輪郭強調	標準	弱	強	—	87
③ W.BAL （ホワイトバランス）	既定値選択	ワンプッシュ	—	—	87
④ 彩度	標準	＜＋＞	＜－＞	—	87
⑤ REC レビュー	なし	あり	—	—	88
⑥ レビュー表示	プレーン	ヒストグラム	—	—	88
⑦ ハイライト	OFF	ON	—	—	88
⑧ 再生オフ時間	2分	5分	10分	なし	88
⑨ モードロック （電源OFF時の設定のままのモードでON）	ON	OFF	—	—	88
⑩ 設定リセット	（キャンセル）	実行	—	—	88
⑪ CFフォーマット	（キャンセル）	実行	—	—	88
⑫ 連番リセット	（キャンセル）	実行	—	—	89
⑬ 日付設定	2002年 1月1日	購入後設定し 直してください	—	—	89
⑭ 言語LANGUAGE （モニター表示言語）	日本語	ENGLISH	—	—	—
⑮ クリーニング	キャンセル	実行	—	—	89

2. “メニュー内容” の変更のしかた

1

3

SET—UP	
レビュー表示	プレーン
ハイライト	OFF
再生オフ時間	2分
モードロック	ON
設定リセット	

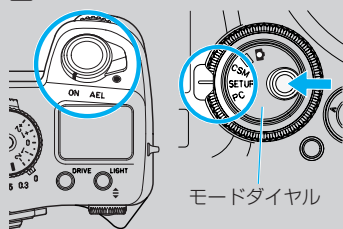
メニュー選択

5

SET—UP	
レビュー表示	プレーン
ハイライト	2分
再生オフ時間	↵5分
モードロック	10分
設定リセット	なし

メニュー内容選択

6

SET—UP	
レビュー表示	プレーン
ハイライト	OFF
再生オフ時間	5分
モードロック	ON
設定リセット	

1 メインスイッチを ON にし、モードダイヤルを “SETUP” にします。

2 液晶モニターにセットアップのメニューが表示されます。

3 リアコマンドダイヤルを回して青窓を動かし、希望のメニューを選択します。

4 “ ↵ ” ボタンを押します。

メニューの内容が表示されます。

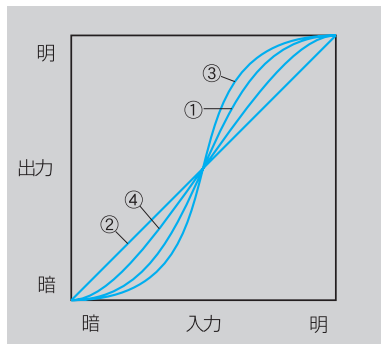
5 リアコマンドダイヤルを回して “ ↵ ” を動かし、希望のメニュー内容を選択します。

6 “ ↵ ” ボタンを押します。

メニューの内容が決定し、セットアップメニュー画面に戻ります。

3. 主なメニューについて

〈1. 階調〉

撮影時、画像の階調を次の4種類から選べます。撮影シーンや使用目的に応じて選んでください。

① **標準**
中間域での階調変化を強調しています。

② **リニア**
明るいところから暗いところまで、均一な変化になります。

③ **硬調**
標準に比べてコントラストを高めに設定しています。

④ **軟調**
標準に比べてコントラストを低めに設定しています。

〈2. 輪郭強調〉

撮影時、画像の輪郭部をデジタル処理し輪郭をはっきり浮き立たせる機能です。適応する強さをお選びいただけます。

① 標準　② 弱　③ 強

〈3. W.BAL（ホワイトバランス）〉

光の状況に応じて順応する人間の目と異なり、このカメラに使用しているCCDは白を白く写すために太陽光や室内の電球・蛍光灯などの光源に合わせて色補正が必要です。
このカメラのホワイトバランスのセットは“既定値選択”または“ワンプッシュ”方式で行います。

① **既定値選択：**
このカメラの標準として備えるホワイトバランス既定値です。P52の表を参考に撮影する環境に適したホワイトバランス既定値をお選びください。

② **ワンプッシュ：**
いろいろな光源がミックスしているときや、より厳密なホワイトバランスをとりたいときにはこのモードにしてください。
- 絞り込みボタンを押しながらのワンプッシュホワイトバランスの設定はできません。

〈4. 彩度〉

色のあざやかさの程度を調整します。

① 標準
② ＜＋＞：あざやかさを高めます。
③ ＜－＞：あざやかさを抑えます。

〈5. RECレビュー〉

撮影時、撮影結果をすぐにモニターしたい場合に使用します。

① なし：DISPLAYボタンで表示します。　② あり：撮影後、自動で表示します。

※表示した画像はシャッター半押しで消灯します。画像が表示されているときはシャッタータイムラグが長くなります。

〈6. レビュー表示〉

RECレビュー画像の表示内容。

① **プレーン（標準画像）：**
液晶モニター画面一杯に画像を表示します。

② **ヒストグラム：**
露出チェックや補正量の把握に便利な輝度分布をグラフ化したものをサムネイル画像に合わせて表示します。

〈7. ハイライト〉

ヒストグラム表示時、サムネイル画像上に撮影画像の露出オーバーぎみの箇所（いわゆる白とび）をフリッカー表示し、注意を促します。

① OFF　② ON

〈8. 再生オフ時間〉

再生表示時間の自動オフ時間をセットします。

① 2分　② 5分　③ 10分　④ なし（連続再生）

〈9. モードロック〉

パワーオフ時の設定のままで次回パワーオンします。

① ON

② OFF：次回メインスイッチON時には、記録方式・ホワイトバランスが初期設定に戻ります。（JPEG 1、5500k）

〈10. 設定リセット〉

言語選択と撮影画像のカスタム設定と日付設定を除く全てのSETUP項目を初期化

キャンセル／実行

〈11. CFフォーマット〉

コンパクトフラッシュに記録されている画像やフォルダーを全て削除します。（メモリーカードの初期化）プロテクトしてある画像も消されますので、記録内容を十分確認してから行ってください。

キャンセル／実行

〈12. 連番リセット〉

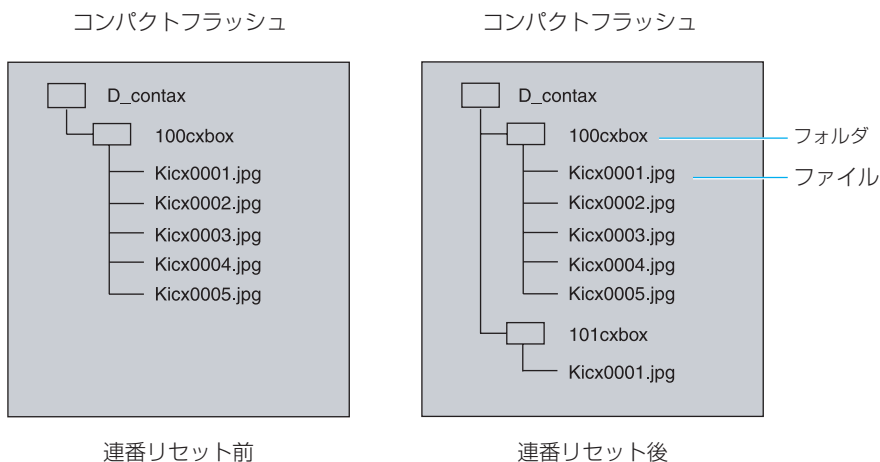
この機能を実行すると、フォルダを新規に作成して、そこに画像データを記録します。（連番リセットと呼びます。）撮影場面が変わるときなど画像データの記録管理に便利です。

キャンセル／実行

連番リセット前： 撮影した順に、番号をファイル名につけて記録されます。
連番リセット後： 新たにフォルダが作られ、“Kicx0001.jpg（または.raw、.tif）”から順に新しいフォルダに記録されます。

- 作成できるフォルダは100cxbox～900cxboxです。
- フォルダ番号を100に戻したいときは、コンパクトフラッシュを装てんしないで連番リセットを行うと、フォルダ番号は100cxbox、ファイル番号はKicx0001.jpg（または.raw、.tif）に設定されます。

連番リセット前

連番リセット後

〈13. 日付設定〉

現在の年月日・時刻の設定を行います。設定方法はP21をご覧ください。

〈15. クリーニング〉

撮像部のクリーニングを行うときに使用します。詳しくはP105をご覧ください。

キャンセル／実行

カスタム機能について

このカメラの機能は、さまざまな撮影スタイルに応じて変更することができます。
ご自身のスタイルに合わせて設定してください。

各種設定

1. カメラ操作のカスタム機能

このカメラには、次の表のように、21 項目の“カメラ操作カスタム機能”を搭載しています。お買い上げ時は、標準的な機能（内容番号の標準設定“0”）にセットしてあります。(機能番号 ⑥ を除く＊ 1）

この取扱説明書では“0”の状態で説明しています。

カスタム機能を変更したい場合は「カスタム機能のセットのしかた」（P92）をご覧ください。

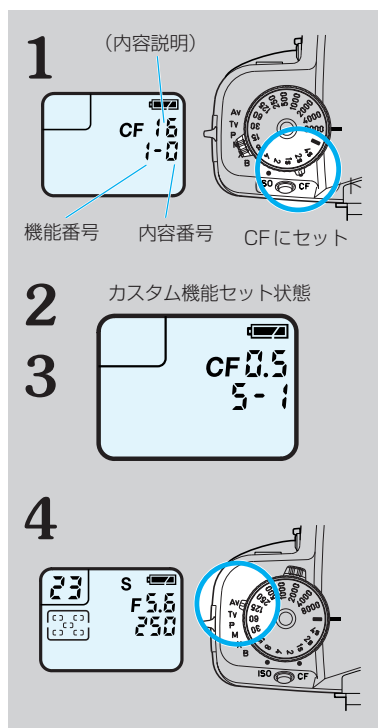
● カスタム機能をセットするとカメラの機能や操作手順が変わります。この「カスタム機能」のページをよくお読みいただき、正しくご使用ください。

〈1.カスタム機能一覧表〉

内容番号 機能番号	標準設定（0）	変更設定（1）	変更設定(2)	変更設定(3)
① パワーホールド時間	16 秒	12 秒	8 秒	4 秒
② シャッターボタン半押しで AEロック	AE ロックしない	AE ロックする	—	—
③ 露出チェックボタンのAEロックSW化	AE ロック機能無し	AE ロック機能有り	—	—
④ フロントコマンドダイヤル・シャッター設定ステップ	1.0 Tv	0.5 Tv	—	—
⑤ フロントコマンドダイヤル・露出補正ステップ	0.3EV	0.5EV	—	—
⑥ 評価測光時のファインダー内メーター表示（＊ 1）	中央重点平均測光との差	スポット測光との差	露出補正値（＊ 1）	—
⑦ 露出 ABC の順番	スタンダード→オーバー→アンダー	オーバー →スタンダード→アンダー	—	—
⑧ フォーカス ABC 補正幅	装着レンズの開放被写界深度	装着レンズの開放被写界深度 2 倍	—	—
⑨ フォーカスABC フォーカスモード	MF	SAF	—	—
⑩ フォーカス ABC 後ピン有無	後ピン有り	後ピン無し	—	—
⑪ AF 補助光点灯・有無	点灯有り	点灯無し	—	—
⑫ AF合焦音・有無	有り	無し	—	—
⑬ シャッターボタン半押し時スーパーインポーズ（＊ 2）	有り	無し	—	—
⑭ 合焦時のスーパーインポーズ（＊ 2）	有り	無し	—	—
⑮ ⑯ ⑱ 機能番号は表示されますが設定はできません	—	—	—	—
⑰ 絞り込みボタン操作方法の切り替え	押している間絞り込み	押す毎に絞り込み ↔ 開放	—	—
⑲ ストロボ撮影時のプログラム TTL 制御	Av、Tv、P	P	—	—
⑳ “M” 時フォーカスボタン機能	SAF	CAF	—	—
㉑ ズームレンズ装着時の絞り値表示（＊ 3）	絞りリングに合わせる	ズーミングに連動させる	—	—

機能番号 ＼ 内容番号	標準設定（0）	変更設定（1）	変更設定(2)	変更設定(3)
CLE：カスタム機能の初期化	カスタム機能（①〜㉑）の内容がすべて標準設定になります。 ● この状態で露出レバーを“CF”以外にすると、それまでセットしたカスタム機能の内容がすべて標準設定“0”の状態になりますのでご注意ください。（＊4）			

（＊1）機能番号⑥「評価測定時のファインダー内メーター表示」のみ、お買い上げ時の設定が変更設定（2）「露出補正値」になっています。
（＊2）フォーカスフレームが一瞬赤く照明されます。
（＊3）このカメラはズーミングによって開放絞り値（明るさ）が変化するレンズ（例：バリオゾナー24-85mm F3.5-4.5）をご使用の場合にも、実絞りはズーミングに連動させずに絞りリングでセットした値になるようにカメラ側で制御します。ズーミングに連動させて絞り値を変化させたい場合はカスタム機能番号㉑を変更設定（1）にセットしてください。
（＊4）機能番号⑥も標準設定（0）になります。

〈2. カスタム機能のセットのしかた〉

1 **露出モードレバーを、“CF”にセットします。**

トップ表示パネルに“機能番号と内容番号”が表示され、撮影操作のカスタム機能セット状態になります。

2 **フロントコマンドダイヤルを動かして“機能番号”を選びます。**

3 **フォーカスボタンを押して内容番号を選びます。**

4 **露出モードレバーを撮影モードの位置（“CF”、“ISO”以外）に戻します。**

これでセット完了です。

表示パネルが通常の表示に戻り“CF”は消えます。

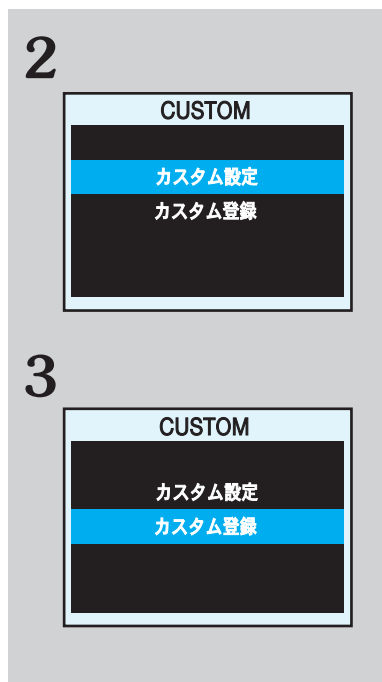
● セットした機能を全て初期化するときは、前記2、で“CLE”を表示させた後、露出モードレバーを露出モードの位置（“CF”、“ISO”以外）に戻してください。

2. デジタル機能のカスタムセット

このカメラは撮影時の記録方式とSET-UPメニューの4項目の内容をデジタル機能のカスタムセットでA,Bの２組登録することができます。撮影目的に合わせて使い分けると便利です。

〈1.登録できるSET-UPメニュー〉

内容 / メニュー項目	初期設定	変更設定(1)	変更設定(2)	変更設定(3)	変更設定(4)
① 記録方式	JPEG 1	TIFF	RAW	JPEG 2	JPEG 3
② 階調	標準	リニア	硬調	軟調	—
③ 輪郭強調	標準	弱	強	—	—
④ W.BAL (ホワイトバランス)	既定値選択	ワンプッシュ	—	—	—
⑤ 彩度	標準	＜＋＞	＜−＞	—	—
⑥ RECレビュー	なし	あり	—	—	—

〈2.登録のしかた〉

1 “ ”(記録方式)とセットアップメニューの4項目を希望の内容にセットします。

セット方法は、記録方式はP49、セットアップメニューはP85、86をご覧ください。

2 モードダイヤルを回して“CSM”(カスタム設定モード)にセットします。

3 リアコマンドダイヤルを回して“カスタム登録”を選び“ ↵ ”ボタンを押します。

4

A カスタム登録 B

画質	JPEG3
階調	硬調
輪郭強調	弱
W.BAL	ワンプッシュセット
彩度	〈+〉
RECレビュー	なし

4 **リアコマンドダイヤルを回して“A”を選び“↵”を押すとカスタム登録“A”の内容が決定します。**

リア表示パネルに“CSM　A”が表示されます。

同様に1～3設定後リアコマンドダイヤルを回して“B”を選び“↵”を押すとカスタム登録“B”の内容が決定します。

リア表示パネルに“CSM　B”が表示されます。

〈3. 使いかた〉

1 **メインスイッチをONにし、モードダイヤルを“CSM”にセットすると、“CUSTOM”画面になります。**

2 **青窓が“カスタム設定”になっていることを確認して、“↵”ボタンを押すと“カスタム設定画面”になります。**

2

A カスタム設定 B

画質	JPEG1
階調	標準
輪郭強調	標準
W.BAL	既定値選択
彩度	標準
RECレビュー	あり

3 **リアコマンドダイヤルで“A”または“B”を選び、“↵”ボタンを押します。**

モニター表示がカスタム設定モードに戻り、リア表示パネルにセットしたカスタムモードが表示されます。

- “A”または“B”選択時、それぞれのセットアップメニュー内容が表示されます。

4 **モードダイヤルを“📷”にセットして撮影してください。**

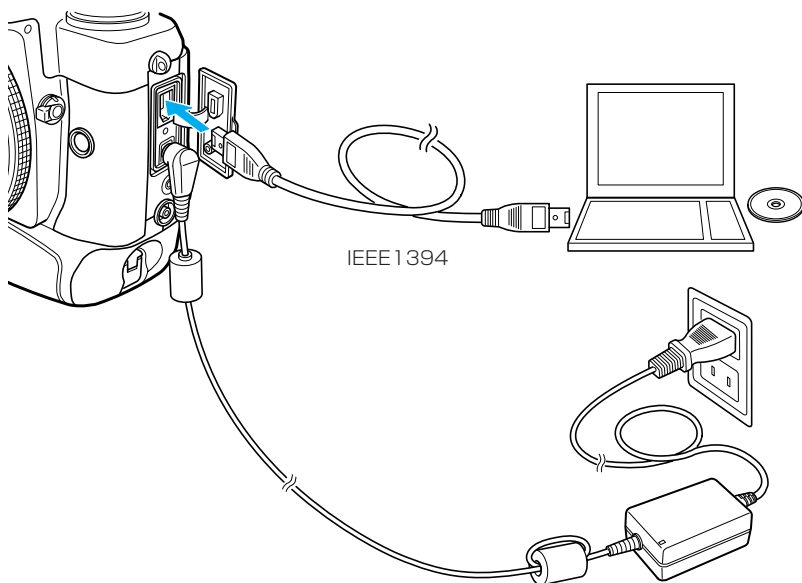
“カスタム設定”クイック呼び出し

“📷”（撮影モード）設定時、次の操作でカスタム設定を呼び出すことができます。

“カスタムA”：“DISPLAY”ボタンを押しながら“BACK”ボタンを押します。
“カスタムB”：“DISPLAY”ボタンを押しながら“↵”ボタンを押します。

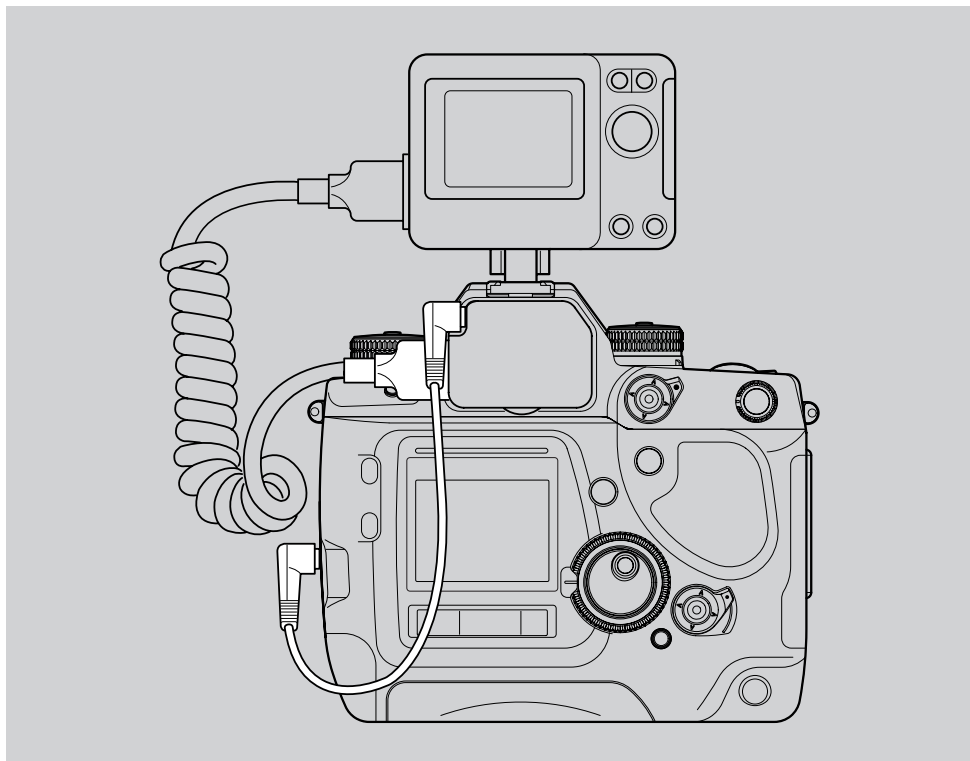
PC モードについて

PCモード

このカメラはPC（パソコン）とIEEE1394を介して直接接続し、RAWデータを連続的に撮影することができます。またパソコンからの操作で、シャッターを切ることもできます。このモードを使用するためには、IEEE1394インターフェイスを備えたパソコンと、別売の“コンタックスRAWデータデベロッパーキット”が必要です。

- コンパクトフラッシュ内の画像をパソコンで加工をすると、その画像をカメラで再生することができなくなります。
- Windows Me、XPのサムネイル画像再生で、画像を回転するとカメラで再生することができなくなります。
- Windows2000、XPで512 MB未満のコンパクトフラッシュをNTFS、FAT32でフォーマットしてカメラに装着すると“カードエラーです”と表示されます。カメラでフォーマットし直してください。

主なアクセサリー

撮影領域を広げる主なアクセサリーを紹介します。

1. 液晶ビューファインダーFE-1

コンタックス N DIGITAL に取り付けて使用する電子ビューファインダーです。

主な機能は次のようになります。

① カメラのファインダー内フォーカシングスクリーン上の画像と液晶表示をそのままLCD画面に表示します。

② 露出補正設定量に応じてLCD画面が変化します。

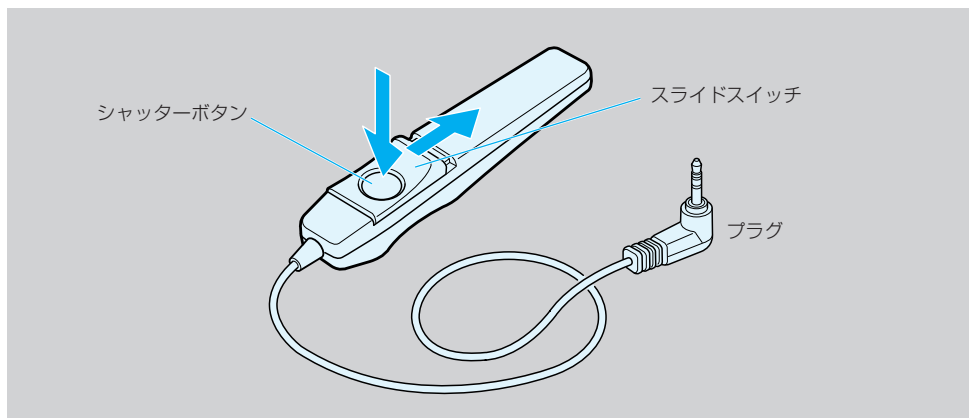
③ カメラの露出ABC補正を設定すると、次の露光に対する補正量に応じてLCD画面が変化します。

- ②の露出補正併用の場合は、それを加味した画面になります。

④ カメラのAEロックを設定するとロック時の値を基準にLCD画面が変化します。

⑤ カラー／白黒切り換え可能

- LCD表示可能な精度範囲がCCDと異なりますので、撮影結果と同等の表示にはなりません。LCD画面は参考としてご利用ください。

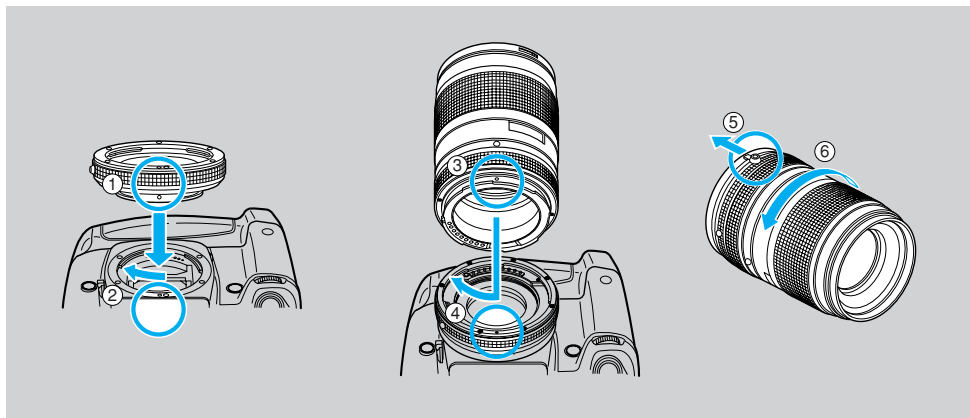
2. CONTAXケーブルスイッチ　LAタイプ

ケーブルスイッチLAタイプは、三脚などを利用しての接写や望遠撮影、あるいはカメラから離れてシャッターを切るときに使用します。特に接写や望遠撮影ではシャッター時のカメラぶれを防ぐことができます。
撮影はケーブルスイッチのシャッターボタン（半押し機能付）で行いますが、長時間露光や連続撮影に便利なスライドスイッチを設けてあります。
コードの長さはLA-50が50cm、LA-500が5mです。

〈取り付け〉

ケーブルスイッチのプラグをカメラのケーブルスイッチソケットに差し込みます。

〈撮影〉

ケーブルスイッチのシャッターボタンを押すと、カメラのシャッターボタンと同じ働きをします。半押しで測距・測光・フォーカスロック等、全押しでシャッターが切れて撮影が行われます。
長時間露光または連続撮影を行うときは、スライドスイッチを利用すると便利です。スイッチを手前に引くと（赤い指標が見えます）、その間シャッターが作動を続け、元に戻すとシャッターが閉じて撮影が終わります。

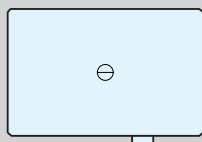
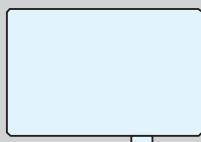
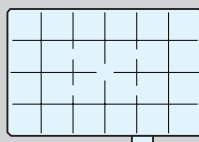
3. CONTAXマウントアダプターNAM-1

CONTAX N DIGITALにCONTAX 645システムのレンズを使用出来るアダプターです。
N DIGITALのフォーカスABCモードを除いて使用できます。

〈マウントアダプターとレンズの取り付けかた〉

1. マウントアダプターのボディ取り付け指標①をカメラのレンズ指標②に合わせてはめ込み、矢印方向に回して取り付けます。
2. レンズの指標（赤色）③をアダプターのレンズ取り付け指標④に合わせ、矢印方向に回して取り付けます。

〈取り外しかた〉

1. レンズを取り外すときは、マウントアダプターの取り外しボタンを矢印方向⑤にスライドさせたまま、反時計方向⑥に回して取り外します。
2. マウントアダプターを取り外すときは、カメラのレンズの取り外しボタンを押しながらマウントアダプターを反時計方向に回して取り外します。

4. フォーカシングスクリーンFXタイプ

N DIGITAL 用のフォーカシングスクリーンは、FX-1～３の３種類が用意されており、撮影目的や用途に応じて交換することができます。交換方法は次ページをご覧ください。（フォーカスフレームはフォーカシングスクリーン上には刻印されておりません。）

- フォーカシングスクリーンは高精度に仕上げられておりますので、絶対に手で触れないでください。

FX-1（水平スプリット式）

中央のスプリット部、周辺のマット部の２つの部分でピントを合わせることができます。

FX-2（全面マット式）

標準装備品。全面をマット状にしたスクリーンで一般撮影に適しています。

FX-3（方眼マット式）

全面マット式に方眼を入れたスクリーンです。複写など厳密に構図を決定するときに適しています。

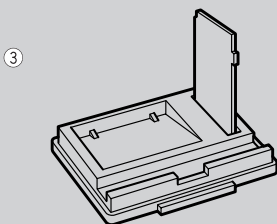
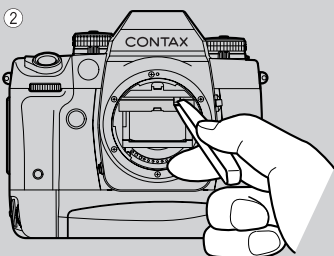
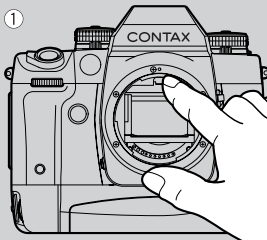
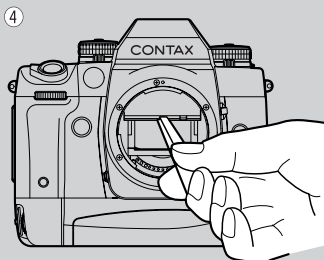
1

①

②

③

2

④

〈フォーカシングスクリーンの交換のしかた〉

※ 各スクリーンには、交換用のピンセットが付属しています。必ず付属のピンセットをご使用ください。

スクリーンの交換は、次のようにしてください。

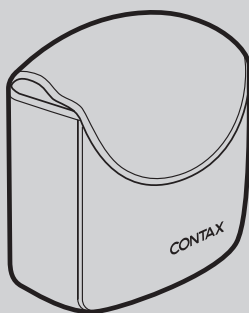
1 スクリーンの取りはずし

① レンズを取りはずしてからカメラのスクリーン交換つめを指の先などで軽く押します。
スクリーンが枠ごと下がりますから、静かにおろしてください。
② スクリーンの突起部をスクリーンに付属のピンセットではさんで取り出します。
③ 取り出したスクリーンは、ケースの溝に立てておくと汚れや傷をつける心配がありません。

2 スクリーンの取り付け

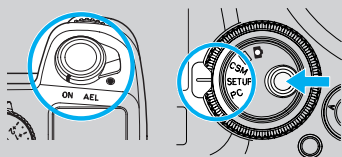
④ 取り付けるスクリーンの突起部をピンセットではさみ、下がっている枠内に入れます。次に枠の突起部（交換つめ）をピンセットでカチッと止まるところまで静かに押し上げてください。
最後に指で軽く押し、確実に入っているか確認してください。
これで取り付けは完了です。

- フォーカシングスクリーンの交換は必ず専用のピンセットを使用し、ミラー面、およびスクリーンに傷や指紋をつけないように注意してください。
- スクリーンにごみがついたときは、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払ってください。
- 取り付けかたが不完全ですと撮影中にスクリーンがはずれて破損したり、レンズの着脱ができなくなることがあります。このときは、専門的な処置を必要としますので最寄りのサービスステーションにお持ちください。
- 使わないスクリーンは、スクリーンケース内の図解に従って収納しておいてください。

5. ボディケース

N DIGITAL ボディを保護するケースです。

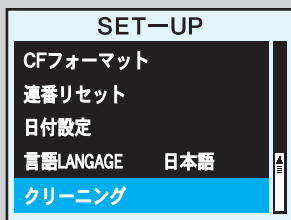
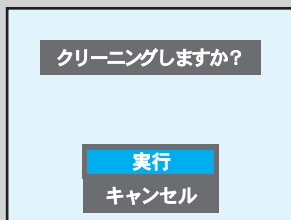
その他

1. 撮像部のクリーニング

撮像部（CCD 及びフィルター）はフィルムを使用するカメラのフィルムの役目を果たします。この撮像部にゴミやホコリが付くと、撮影した画像に黒い点や影などが写り込むことがあります。
このような場合には次の手順で撮像部をクリーニングしてください。
ただし、撮像部は非常にデリケートですので、クリーニングが必要なときはできる限り当社サービスセンターへお申し付けください。
クリーニングを行う際は、電源は必ず付属のACアダプターをご使用ください。電池ホルダー使用によるクリーニングは、液晶モニターに警告文が表示され、クリーニングはできません。

1 レンズを取りはずします。（P18）

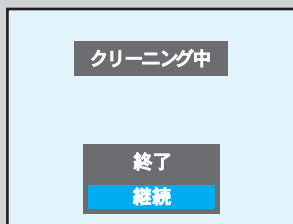
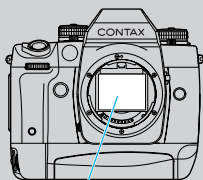
- レンズを装着した状態では、クリーニングはできません。

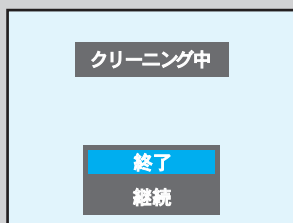
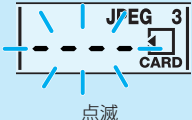
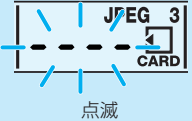
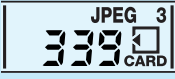
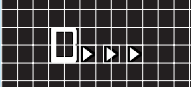
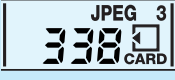
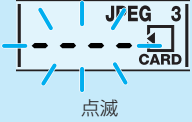
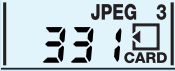
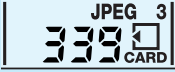
2 メインスイッチを ON にし、モードダイヤルを“SETUP” にセットします。

3 リアコマンドダイヤルを回して“クリーニング”を選択し、“ ↵ ” ボタンを押します。

4 “クリーニングをしますか？”の画面になりますので、リアコマンドダイヤルを回して “実行” を選択し “ ↵ ” ボタンを押します。

5

6

7

5 ミラーが上がりシャッターが開き、液晶モニターには“クリーニング中”が表示されます。

6 撮像部をクリーニングします。

ブロワー（市販品）で慎重に撮像部表面のゴミやホコリを吹き飛ばしてください。

7 クリーニングを終了します。

クリーニング作業が終了したら、リアコマンドダイヤルを回し“クリーニング中”表示の“終了”を選択し、“↵”ボタンを押します。

シャッターが閉じ、ミラーが下がります。液晶モニターは元の“SETUP”表示に戻ります。

- ミラーが下がるまでレンズは取り付けないでください。

- クリーニング中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源が切れるとシャッターが閉じますので、撮像部やシャッター幕損傷の原因になることがあります。
- 布などで直接撮像部を拭かないでください。撮像部表面に傷がつくことがあります。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシを使用すると、撮像部の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアー先端はマウント面より奥に入れないでください。停電などにより電源が切れると、シャッターが閉じシャッター幕破損の原因になります。
- ブロワーは強く吹かないでください。強く吹くとシャッターの変形や破損の恐れがあります。ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。

2. モニター表示（案内と警告）一覧

設定モード	モニター表示	リア表示パネル	内　容	参照頁
撮影モード（レビュー表示なし）	撮影画像表示なし	JPEG 3 ---- CARD 点滅	● カードカバーが開いています。閉じてください。 ● カードエラーです。フォーマットしてください。	83
		JPEG 3 ---- カードマークなし	● カードがありません。カードを装着してください。	19
撮影モード（レビュー表示あり）	“カバーが開いています”表示	JPEG 3 ---- CARD 点滅	● カードカバーが開いています。閉じてください。 ● カードエラーです。フォーマットしてください。	83
	“カードがありません”表示	JPEG 3 ---- カードマークなし	● カードがありません。カードを装着してください。	19
		JPEG 3 339 CARD	消去実行中	47
		JPEG 3 338 CARD	ズーム画像等に移行中	46
再生モード	“カバーが開いています”表示	JPEG 3 ---- CARD 点滅	● カードカバーが開いています。閉じてください。	—
	“カードがありません”表示	JPEG 3 ---- カードマークなし	● カードがありません。カードを装着してください。	19
	“カードエラーです”表示	JPEG 3 ---- CARD 点滅	● カードエラーです。フォーマットしてください。	83

設定モード	モニター表示	リア表示パネル	内　容	参照頁
再生モード		JPEG 3 331 CARD	ズーム画像等に移行中	77
		JPEG 3 339 CARD	消去実行中	80

3. シャッタースピードと絞り値の表示について

シャッタースピードおよび絞り値は次のように表示されます。

- シャッタースピードの表示は “8000”（1/8000秒）から “32″ ”（32秒）まで表示されます。カメラの露出モードが “Av”、“P” のときは絞りに応じた値を1/2段階ごとに、“Tv” “M” のときはセットした値を表示します。
  “X” にセットしたときはシャッタースピードは “125” が表示されます。
  “B” にセットしたときはシャッタースピードは “buLb” と表示されます。
- 絞り値は、使用レンズの絞り範囲内で1/2段階ごとに値が表示されます。ただし、1/2段のさらに間で作動するときは近い表示で示されます。たとえば絞り値がf3.3のときは “3.5” と表示されます。

シャッタースピード			絞り値
AvまたはP時、およびTvまたはMのフロントコマンドダイヤル（0.5Tv）設定時		TvまたはMのシャッターダイヤル設定時およびTvまたはMのフロントコマンドダイヤル（1Tv）設定時	全モード
8000	10	8000	45
6000	8	4000	38
4000	6	2000	32
2800	4	1000	27
2000	3	500	22
1400	2	250	19
1000	0”7	125	16
700	1”	60	13
500	1”4	30	11
350	2”	15	9.5
250	2”8	11	8.0
180	4”	8	6.5
125	5”6	4	5.6
90	8”	2	4.5
60	11”	1”	4.0
45	16”	2”	3.5
30	22”	4”	2.8
20	32”	8”	2.4
15		16”	2.0
		32”	1.7
			1.4
			1.2

シャッターダイヤル設定時（8000～4”）

フロントコマンドダイヤル（1Tv）設定時（8000～32”）

4.「故障かな？」とお考えになる前に

『故障かな？』と思われても、修理に出す前にもう一度次の表で症状と解決方法をご確認ください。

操作	症　状	原　因	解決方法	参照頁
電源	表示パネルに表示が出ない。	● 電池が入っていない。 ● 電池が完全に消耗している。 ● 電池が逆向きに入っている。	● 電池を入れる。 ● 蓄電池を充電する。 ● 電池を正しく入れ直す。	17 — 17
	撮影時電池容量マーク“▭”が点滅する。	● 電池が消耗している。	● 蓄電池を充電する。	—
撮影	ファインダー内表示がはっきり見えない。	● 視度が合っていない。	● 視度調整ダイヤルを回して、調整してください。	18
	シャッターが切れない。	● コンパクトフラッシュの撮影可能記録容量が足りない。 ● ドライブモードが“セルフタイマー”モードになっている。	● 新しいコンパクトフラッシュを入れるか、または不要な画像を消去してください。 ● 他のドライブモードに切り替える。	— 24
	写真がぼけている。	● ピントが合っていない。 ● シャッターボタンを押すときにカメラぶれを起こしている。 ● 遅いシャッタースピードになる。	● ピントを正しく合わせる。 ● カメラぶれを起こさないように、シャッターボタンを静かに押します。 ● 三脚をご使用ください。	29 27 —
	露出補正マークが点滅している。	● 露出補正をかけたままになっている。	● 露出補正ダイヤルを“0”に戻す。	59
	露出ＡＢＣ撮影またはフォーカスABC撮影で１コマしか撮影できない。	● シャッターボタンから指を早く離している。 ● コンパクトフラッシュの撮影可能記録容量が足りない。	● ３コマ撮影し終わるまでシャッターを押し続ける。 ● 新しいコンパクトフラッシュを入れるか、または不要な画像を消去してください。	38、60 —
	トップ表示パネルの撮影可能コマ数カウンターが点滅している。（00）以外	● 露出ABCまたはフォーカスABCモードになっている。	● 露出ABCレバーを“0”またはフォーカスダイヤルをフォーカスABCモード以外にしてください。	38、60
	シャッターボタンを半押しすると、測光マークが点滅する。	● カスタムファンクションが“2-1”になっている。	● カスタムファンクションを“2-0”にしてください。	91
	カードアクセスLED点滅。	● 画像の記録中。	● シャッターを切ることができない時は、消灯（記録完了）までお待ちください。	45
	撮影したのに撮影可能コマ数が変わらない。	● 撮影した画像のファイルサイズが小さかった。	● 記録方式や被写体の状態によるものなので、特に問題ありません。	—

操作	症　状	原　因	解決方法	参照頁
再生	液晶モニター再生中の画像が消えている。	● 再生設定時間をこえると自動的に消えます。	● “DISPLAY”、“MENU”、“W.BAL”、“BACK”のいずれかのボタンを押すと、再生が始まります。	85
	再生画面にノイズがあり見づらい。	● カメラの近くに磁石等、磁気を発生するものがある。	● カメラを、磁気を発生するものから遠ざけてください。	—
	液晶モニターに“カードエラー”表示。	● このカメラで取り扱いできないフォーマット形式のコンパクトフラッシュである。	● パソコンで再生してください。	—
		● コンパクトフラッシュが正しく装着されていません。	● コンパクトフラッシュを装着し直してください。	19
	画像を消去したのに撮影可能コマ数が増えない。	● 消去した画像の容量が少なかった。	● 記録方式や被写体の状態によるものなので、特に問題ありません。	—

主な仕様

型式	：フォーカルプレンシャッター式AF/AE一眼レフデジタルカメラ
撮像画面サイズ	：24×36mm
撮像素子	：35mmフルフレーム正方画素RGB原色CCD
カメラ有効画素数	：629万画素
記録画素数	：604万画素（3008×2008画素）
記録方式	：JPEG（圧縮率1/4、1/8、1/16）、RGB-TIFF、RAW（12bit） （RAWデータは専用RAWデータ処理ソフトにより現像できます）
記録媒体	：コンパクトフラッシュ™カード（タイプⅠ、Ⅱ準拠）、Micro Drive™
ファイルサイズ	：JPEG 1（1/4圧縮）　約3MB JPEG 2（1/8圧縮）　約1.5MB JPEG 3（1/16圧縮）　約0.8MB RGB-TIFF　約18MB RAW　約9MB
ホワイトバランス	：オート、ストロボ、蛍光灯、色温度設定（既定値から選択）、ワンプッシュ・プリセット
オートホワイトバランス	：内蔵専用センサーによる
画質調整	：トーンカーブ、輪郭強調、彩度
液晶モニタ	：2.0型低温ポリシリコンTFTカラー液晶20万画素
再生表示	：1コマ、9コマインデックス、再生ズーム、ヒストグラム表示、ハイライト警告表示可能
レンズマウント	：コンタックスNマウント
シャッター形式	：縦走行フォーカルプレンシャッター
シャッタースピード	：Av、P　：32秒～1/8000秒 Tv、M　：シャッターダイヤル設定‥‥4秒～1/8000秒 Tv、M　：電子ダイヤル設定‥‥32秒～1/8000秒 B　：バルブ X　：1/125秒
シンクロ接点	：X接点（1/250秒以下で同調） ダイレクト接点、およびシンクロターミナル付き
セルフタイマー	：電子式、作動時間2秒、10秒
シャッターレリーズ	：電子レリーズ方式、専用ケーブルスイッチソケット付
露出制御	：① 絞り優先オート　② シャッター優先オート　③ プログラムオート ④ マニュアル露出　⑤ TTLオートストロボ
測光方式	：TTL評価測光／中央重点平均測光／スポット測光　切り替え式
測光連動範囲 （ISO100、F1.4）	：評価測光　：EV0～21 中央重点平均測光：EV0～21 スポット測光　：EV3～21
撮影感度	：ISO25～400相当（1/3ステップ）
AEロック	：像面光量記憶方式
露出補正	：＋2EV～－2EV（1/3または1/2ステップで設定可能）
露出ABC機構	：露出のABCレバーの設定による露出補正 補正幅±0.3EV／±0.5EV／±1EV
ストロボ調光連動方式	：TTLダイレクト調光方式
ストロボ同調	：専用ストロボの充電完了によりシャッタースピード自動切り替え
ストロボオートセット機能	：ストロボオートセット機能付き当社ストロボと組み合わせることにより可能
後幕シンクロ	：後幕シンクロ機能のある当社ストロボと組み合わせることにより可能
測距方式	：5点TTL位相差検出方式
フォーカスABC機構	：フォーカスダイヤル設定による自動フォーカス補正機能

ファインダー	:ペンタプリズム使用のアイレベル型(ロングアイポイント式) ・視野率····95%　　　・倍率····0.73倍 (50mm標準レンズ無限遠、視度－1Dのとき) アイピースシャッター付
視度補正	:視度補正機構内蔵、補正範囲－3D～＋1D(別売FMタイプ、2種類)
フォーカシングスクリーン	:全面マット式を標準装備、スクリーン交換可能(FXタイプ)
ファインダー内表示	:フォーカスフレーム、露出ABCマーク、フォーカスABCマーク、撮影可能コマ数カウンター／セルフタイマー時間／露出ABC、フォーカスABC撮影順序／測光マーク、ストロボマーク、フォーカス表示、絞り値、シャッタースピード、露出メーター／露出補正値／測光差、露出補正マーク、マニュアル露出マーク
トップ表示パネル	:撮影可能コマ数カウンター／セルフタイマー時間／露出ABC、フォーカスABC撮影順序／バルブ経過時間、フォーカスフレーム選択表示、露出補正値(露出補正ダイヤル・グリーンポジション時)、ドライブマーク、電池容量マーク(撮影時)、絞り値、シャッタースピード／撮影感度／カメラ部カスタムファンクション
リア表示パネル	:撮影可能コマ数カウンター、記録方式、ホワイトバランス、メニュー部カスタムセット、メモリーカード未装着警告、再生電池容量マーク
ドライブモード	:1コマ、連続、セルフタイマー2秒、10秒
連続撮影	:最高約3コマ/秒(フル充電蓄電池使用、常温、当社撮影基準による)
撮影可能コマ数カウンター	:トップ、リア表示パネル、ファインダー内とも減算式(トップ表示パネルおよびファインダー内は99枚以上を99と表示)
アクセサリーシュー	:ダイレクトX接点(TLAストロボ連動接点付)
外部インターフェイス	:IEEE1394
電源	:単3形ニッケル水素蓄電池4本、専用ACアダプター
バッテリーチェック	:自動チェック式、表示パネルに表示
撮影コマ数	:約300コマ(常温、JPEG3、当社撮影基準による) ＊ 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影コマ数は少なくなります。 ＊ シャッターボタン半押しを続けたり、AFのみを行って撮影をしないなどの操作を頻繁に行うと、撮影コマ数は少なくなります。
その他	:露出チェックボタン、絞り込みボタン、AF補助光付、カメラ部カスタム機能、メニューカスタムセット、縦位置シャッターボタン(ロックあり)
寸法、質量	:152(幅)×138(高さ)×79.5(奥行き)mm 1000g(電池アイカップ別)
同梱品	:単3形ニッケル水素電池、急速充電器、ACアダプター、ストラップ、CCDデータCDR

※ 仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。本製品の機能をフルに活用していただくためにも、交換レンズ、およびアクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。コンタックス用として市販されている他社商品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。

参考資料

写真の参考になる知識や、このカメラのデータを紹介します。

1. DIGITAL写真の基本用語

〈コンパクトフラッシュ〉
小型メモリーカードです。厚みによりType Ⅰと Type Ⅱがあります。このカメラは両方に対応しています。

〈マイクロドライブ〉
コンパクトフラッシュ Type Ⅱサイズの超小型ハードディスクです。構造上、振動や衝撃に弱いので取り扱いにはご注意ください。

〈露出〉
撮像素子にあてる光の量のこと。
写真の撮影を行うときは、絞り開口量とシャッターの開閉時間により、撮像素子にあてる光の量を調節します。

〈シャッタースピード〉
カメラ本体に組み込まれているシャッターは撮像素子にあたる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調節します。このシャッターを開いている時間の長さをシャッタースピードと言います。

〈絞り値〉
レンズに組み込まれている絞りは、レンズを通り撮像素子にあたる光の量を、開口部を拡げたり縮めたりして調節します。この開口部の大きさを絞り値と言います。

〈ISO感度〉
銀塩フィルムが、どの程度の光まで感応するかをISO（International Standardization Organization・国際標準化機構）で定めた数値で表しています。このデジタルカメラでも銀塩フィルム感度に準じてISO感度を使用しています。撮影環境に合わせて感度を設定してください。
ISO値が小さいほど光に対する感度が低くなります。シャッタースピードを遅くしたり、絞りを開けて撮影することができます。ISO値が大きいほど光に対する感度は高くなります。少ない光の量で感応しますので、暗いところでの撮影や高速シャッターでの撮影ができます。しかし画像にノイズが入ったりする場合があります。

〈JPEG〉
Joint Photographic Experts Groupの略でカラー静止画像を圧縮保存するための画像形式です。圧縮率が高くなるほど復元時には画像が劣化します。

〈TIFF〉
Tag Image File Format の略で、ビットマップ画像を保存するためのファイル形式です。DTP（デスクトップ・パブリッシング）などで広く使われています。

〈RAW〉
圧縮を行わずに、撮像素子の画像データをそのまま記録します。記録した画像はパソコンで加工します。記録した画像をパソコン上で開くには専用ソフトが必要です。

〈フォーマット〉
コンパクトフラッシュのフォーマットとは、コンパクトフラッシュ内の画像記録ができるように初期化することです。コンパクトフラッシュ内に記録されている全てのデータが消去されます。記録内容を十分に確認してからフォーマットを実行してください。

〈CCDパラメーター〉
より高品質な画像を提供するために、CCD上での欠陥情報や素子ごとの感度のバラツキに関する情報など、各カメラに搭載するCCD固有の情報のことです。

〈ヒストグラム〉
撮影した画像データの明るさ分布を示すグラフです。横軸は左から右へ黒→グレー→白までの明るさの階調を、縦軸は各明るさ階調の登場回数の累積を表します。画像の内容に合わせて露出補正を行う時などに使用します。

英数字

あ

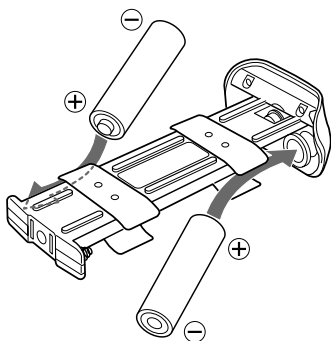
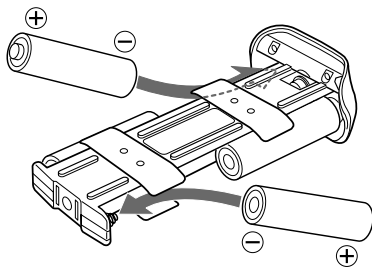
か

さ

T8021811

「電池の入れかた」に関するご注意

電池＋側の凸部が電池ホルダーの＋側接点の凹部に正しく収まるように蓄電池を挿入してください。

電池を無理に入れると、接点の破損やショート、発熱、発火の原因になります。
被覆のはがれた電池は絶対に使用しないでください。

English

Precautions Regarding the Loading of Batteries

Insert batteries into the Battery holder so that the convex part on their positive (+) side is placed in the concave part on the positive contact point of the holder properly.

 Do not insert batteries forcibly, since the battery may cause damage or short circuit of contacts, generate heat or emit flame.
Never use exposed batteries with insulation stripped off.

Deutsch

Vorsichtshinweise zum Einlegen der Akkus

Die Akkus so in den Akkuhalter einlegen, dass der konvexe Teil am Pluspol (+) jedes Akkus einwandfrei in den konkaven Teil am positiven Kontakt im Inneren des Akkuhalters eingepasst wird.

 Die Akkus beim Einlegen nicht forcieren, da die Kontakte anderenfalls beschädigt oder kurzgeschlossen werden können und die Gefahr von Wärmeentwicklung oder Brand besteht.
Auf keinen Fall Akkus verwenden, deren Ummantelung sich teilweise abgelöst hat.

Français

Précautions relatives à la mise en place des piles

Insérez les piles dans le logement de sorte que la partie convexe sur leur côté positif (+) soit posé convenablement dans la partie concave sur le point de contact positif du logement.

 N'insérez pas les piles en forçant, car elles pourraient endommager les contacts ou les court-circuiter, produire de la chaleur ou émettre une flamme.
N'utilisez jamais des piles à nu, du fait que leur isolant a été arraché.

Español

Precauciones para la inserción de las baterías

Inserte las baterías en el compartimiento de las baterías de modo que la parte convexa de su lado positivo (+) quede correctamente en la parte cóncava del punto de contacto positivo del compartimiento.

 No inserte las baterías forzándolas, porque podría dañar las baterías o causar cortocircuitos de los contactos, generando calor y pudiéndose originar hasta fuego.
No emplee nunca baterías dañadas ni desprovistas de la parte de aislamiento.

Printed in Japan